

平成 28 年 度

佐 賀 大 学
入 学 者 選 拔 要 項



佐 賀 大 学

☎ 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e - mail contact@mail.admin.saga-u.ac.jp

目 次

I	芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組予定について……………	1
II	入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）……………	6
III	学部、学科・課程等及び募集人員等……………	39
IV	出 願 資 格……………	40
V	選 抜 方 法……………	41
	○教科・科目名の表記について……………	46
	○平成28年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について……………	47
	○平成28年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について……………	48
	○芸術地域デザイン学部の実技検査の選択方法と持参道具について……………	49
	○平成28年度佐賀大学入学受入れ（一般入試）における実施教科・科目等……………	50
	・平成28年度佐賀大学入学受入れにおける旧教育課程履修者に対する経過措置 について……………	60
	○平成28年度特別入試（推薦入試）……………	61
	○平成28年度特別入試（帰国子女）……………	81
	○平成28年度特別入試（社会人）……………	83
	○平成28年度特別入試（佐賀県推薦入学）……………	84
	○平成28年度特別入試（AO入試）……………	86
VI	私費外国人留学生入試……………	93
VII	事前相談を要するみなさんへ……………	95
VIII	平成29年度以降の入学受入れ方法等の変更について〔予告〕……………	96
IX	学生募集要項の公表・配布及び請求方法について……………	97

■入試日程

選 抜 種 別	学 部	出 願 期 間	試 験 日	合 格 者 発 表 日	
一般入試	前期日程	平成28年1月25日(月) ～ 平成28年2月3日(水)	教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 理工学部, 農学部	平成28年2月25日(木)	平成28年3月6日(日)
			医学部	平成28年2月25日(木) 平成28年2月26日(金)	
	後期日程	平成28年2月3日(水)	教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 理工学部, 農学部	平成28年3月12日(土)	平成28年3月21日(月)
			医学部	平成28年3月12日(土) 平成28年3月13日(日)	
特 別 入 試	推薦入試Ⅰ	平成27年11月2日(月) ～ 平成27年11月9日(月)	経済学部, 理工学部, 農学部	平成27年11月27日(金)	平成27年12月7日(月)
			医学部看護学科	平成27年11月28日(土)	
		教育学部	平成27年11月20日(金)	平成27年12月11日(金)	平成27年12月17日(木)
			芸術地域デザイン学部	平成27年11月26日(木)	
	推薦入試Ⅱ	平成27年11月2日(月)～ 平成27年11月9日(月)	医学部医学科	平成27年11月28日(土)	平成28年2月10日(水)
			理工学部	—	
	AO入試	平成27年11月20日(金) ～ 平成27年11月26日(木)	教育学部学校教育課程	平成27年12月11日(金) 平成27年12月12日(土)	平成27年12月17日(木)
			芸術地域デザイン学部	平成27年12月11日(金)	
	帰国子女	平成27年11月2日(月) ～ 平成27年11月9日(月)	理工学部, 農学部	平成27年11月27日(金)	平成27年12月7日(月)
			医学部医学科	平成28年2月25日(木) 平成28年2月26日(金)	平成28年3月6日(日)
社会人		平成27年11月2日(月) ～ 平成27年11月9日(月)	医学部看護学科	平成27年11月28日(土)	平成27年12月7日(月)
佐賀県推薦入学	平成27年11月19日(木) ～ 平成27年11月24日(火)	医学部医学科 (右記出願期間はあらかじめ行 われる佐賀県の選抜を経た上 での出願期間です。)	平成27年11月28日(土)	平成28年2月10日(水)	
私費外国人 留学生入試	平成28年1月21日(木) ～ 平成28年1月28日(木)	教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 理工学部, 農学部	平成28年3月1日(火)	平成28年3月6日(日)	
		医学部医学科	平成28年2月25日(木) 平成28年2月26日(金)		

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項、AO入試学生募集要項、私費外国人留学生入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

I 芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組予定について

佐賀大学は、地域創生の中核的拠点を目指し、平成28年4月に下記のとおり芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組を予定しております。これら計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。

佐賀大学では、文部科学省に芸術地域デザイン学部の設置並びに文化教育学部の改組に関する次のような計画を提出しております。これらの設置・改組に伴い、文化教育学部国際文化課程、人間環境課程及び美術・工芸課程の学生募集を平成28年4月に停止します。

これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。この入学者選抜要項に掲載する募集人員、出願資格・要件、入学者選抜方法及び選抜期日などはすべて予定です。詳細については、文部科学省大学設置・大学法人審議会の審査結果通知（平成27年8月末）後、推薦入試学生募集要項、AO入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項で発表する予定です。

1 設置・改組計画

設置・改組前		設置・改組後（平成28年度）	
文化教育学部		芸術地域デザイン学部	
学校教育課程	90人	芸術地域デザイン学科	
国際文化課程	60人	芸術表現コース	55人
人間環境課程	60人	地域デザインコース	55人
美術・工芸課程	30人	計	110人
計	240人	教育学部	
		学校教育課程	
		幼小連携教育コース	25人
		小中連携教育コース	95人
		計	120人
		合計	230人

2 「芸術地域デザイン学部」の設置計画について

(1) 設置の目的

芸術地域デザイン学部は、「芸術を通じた地域創生のための人材」の育成を目的として設置し、地域社会において「芸術で地域を拓く人材」、国際社会で活躍する「芸術で世界を拓く人材」を養成するための教育を実施します。

そのため本学部は、これまでの60年の歴史を有する文化教育学部美術・工芸課程の実績に裏付けられた伝統を継承発展させ、個人の表現能力を重視していた教育から次元を転換し、マネジメントやセラミック、都市デザイン等の異なる要素を新たに加え、文化芸術を多面的、総合的に捉え、地域創生の方法論と実践の往還による教育を展開していきます。芸術を基盤

として、人文科学、社会科学、そして自然科学の諸学問から学び、さらに実践的な能力を修得することを教育の柱とし、芸術表現の能力、地域デザインの能力を身に付け地域創生のために活躍できる人材を育成します。

(2) 学科・コースの概要

芸術で地域をデザインすることを学部共通の理念として、各種科目を開講するとともに、コース横断的・融合的なカリキュラムを実現するために1学部1学科体制としています。「芸術表現」と「地域デザイン」という異なる2つの手法により「芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く」という共通の目的を果たすとともに、学問研究としての専門性を明確にするために2コース制とし、異なるアドミッション・ポリシーのもと、入学者選抜をコース別に行います。

芸術を自ら創造・表現し、地域創生に貢献する人材を養成する「芸術表現コース」には、美術・工芸及び有田セラミックの2分野を配置します。また、文化芸術を支え、新たな付加価値を生み出し、地域創生に貢献する人材を養成する「地域デザインコース」には、地域コンテンツデザイン、キュレーション及びフィールドデザインの3分野を配置します。

1) 芸術表現コース

①美術・工芸分野

日本画、西洋画、彫刻、漆・木工芸、染色工芸、ミクストメディアなどからひとつを選んで専門を深めていきます。さらに、材料・技法、経営、歴史などを幅広く学ぶことによって、社会に柔軟に対応できる能力を育成します。

専門分野を究めながらも、マルチな感性と技術をもあわせ持っている人材の育成は、本学の美術・工芸教育の大きな特色です。加えて、佐賀大学美術館を活用した展覧会や実習、学生と市民の協働によるアート活動のカリキュラムなども組み込まれています。

②有田セラミック分野

カリキュラムや、育成する人材のレベルにおいて、他に類を見ない「やきもの」の専門課程です。佐賀大学が磨いてきた美術・工芸分野の表現・造形技術、工学系分野の科学技術、経済学分野の教育・研究——これに、本学に移行する有田窯業大学校が築いてきた伝統工芸教育の伝統が融合して、国内最高峰の環境が実現しました。ここで、陶磁器・ファインセラミックスの研究を進め、高度な専門性を持つ人材を育成します。さらに、各種地場産業や佐賀県窯業技術センター、九州陶磁文化館、海外の様々な研究機関とのネットワークによって、「やきもの教育研究の国際拠点」を目指します。

2) 地域デザインコース

①地域コンテンツデザイン分野

豊かな発想力と確かな表現力を身に付け、デザインという観点から社会やメディアに対応できる人材を育てます。

視覚情報媒体を主体とした社会のニーズを読み取り、「着想」から「実現」までのプロセス、メディアの使い分け、チームワークの大切さなども学びます。さらにデジタル

メディアや先端のテクノロジーを駆使して、さまざまな情報やコンテンツを発信します。そして人々に知的満足感をとどけ、豊かなコミュニケーションを生み出すデザインを創造します。そのために、発想力や企画力、行動力などを磨き、ローカル・グローバルを問わず社会に貢献できる力を身に付けます。

②キュレーション分野

キュレーター養成の専門コースです。キュレーターとは、博物館・美術館の専門職(学芸員)、自治体の教育委員会の文化財担当者、国際的な展覧会・イベントや芸術を生かした地域でのまちづくりなどを担う人材のことを指します。学芸員となるために必要な博物館学、芸術の理論と歴史などの知識を基礎に、芸術・文化を人々とつなげ、地域に拓いていくために必要なプロデュース力や文化産業を担うために必要な経営学など幅広い応用力を身に付け、芸術や文化歴史資源をマネジメントする人材を育成します。佐賀大学美術館で行われる実習、吉野ヶ里遺跡などの地域の考古学調査、国内外の芸術の現場の視察や調査など、幅広い体験学習を通し、実践的な力が身に付きます。

③フィールドデザイン分野

地域の魅力を発掘し、新たな息吹をもたらすために、何が必要か。フィールドデザインでは、地域の課題を見つけ、その歴史資源、文化遺産や景観を評価し、新しい企画や提案ができる力を養います。地理、歴史、流通マーケティング、都市デザインといった幅広い学際的な学び、国内にとどまらない国際的な視野からの文化理解と異文化コミュニケーション力の養成、そして、様々なフィールドでの学習を通して、地域を創造的な視点からデザインする力を養います。まちづくりの現場や吉野ヶ里遺跡などの発掘調査、海外で調査を行う研修などの実習を通し、国内外のフィールドで活躍する人材を育てます。

3 文化教育学部の教育学部への改組計画について

(1) 改組の目的

文化教育学部では、国際文化課程、人間環境課程、美術・工芸課程の3つの課程を廃止するとともに、学校教育課程の理念である「社会的、国際的に広い視野と教養を持ち、教科内容、教育方法等について幅広く学び、教育実習の充実・高度化を通して、学校教育現場の諸問題に的確に対応できる教員を育成する」機能を強化することを目的に、学部の名称を「教育学部」に改め、次のような改組を計画しています。

(2) 改組の概要

- 教員養成機能を強化するため、学校教育課程に特化し、入学定員を現在の学校教育課程の90人から120人に増やします。
- 複雑で多様な地域の数多くの教育課題に対応できる高度な指導力を持った教員を養成するため、現在の学校教育課程を、異なる校種間の教育の連携・接続という観点から、「幼小連携教育コース」と「小中連携教育コース」の2つのコースからなる課程に編成し直します。
- 「幼小連携教育コース」には、幼児期から児童期への子どもの心身の発達や学びを支援

する教育を扱う「幼小発達教育専攻」、特別な支援が必要な子どもの発達段階・特徴に応じた教育支援を扱う「特別支援教育専攻」の2専攻を設置します。

- 「小中連携教育コース」には、中学校の学びへの接続を意識しながら小学校の教科等の授業を考える「初等教育主免専攻」、小学校での学びとの関係を考慮しながら中学校における教材や指導法の研究を行う「中等教育主免専攻」の2専攻を設置します。

(3) コース・専攻の概要

1) 幼小連携教育コース

本コースでは、子どもの生活・発達・学習について、心理、教育・保育、特別支援教育の視点から専門的知識や技能を学ぶことにより、子どものニーズや課題を把握できる教員を養成することを目的としています。そのため、幼小発達教育専攻と特別支援教育専攻という2つの専攻を設け、幼稚園・小学校の教育の接続に関する基礎知識と特別支援教育の基本的理念を習得した上で、それぞれの専攻における専門分野の学習を行います。

①幼小発達教育専攻

小学校教諭1種免許を取得するための各教科等の学習を行うとともに、幼児期から児童期への心身の発達に関する基礎知識を身につけ、幼児教育（保育所・認定こども園・幼稚園等）についての専門的な知識と技能を習得します。幼児教育と小学校教育の接続を中心的な課題としてとらえ、子どもたちの発達や学びの連続性を保証し、その後の児童から生徒への連続的な発達についても理解ができる教員を養成します。

②特別支援教育専攻

小学校教諭1種免許を取得するための各教科等の基礎知識、幼児期から児童期への心身の発達に関する基礎知識を身につけた上で、それをベースにして、特別な教育ニーズをもつ子どもの教育的支援についてのより専門的な知識を習得します。幼児期・児童期の定型発達のプロセスやその特徴を踏まえ、障害特性に応じた教育支援だけでなく、発達段階・特徴に応じた教育支援を展開できる教員を養成します。

2) 小中連携教育コース

本コースではまず、小学校（全教科）と中学校（いずれか1教科）の教員に必要な教科内容、教科教育の基礎的な学習を行います。その上で、1つの教科については、小学校と中学校の教育の接続の観点からその教科の特性を深く理解し、児童生徒の学習意欲を高め、学力を向上させるための教材開発、指導法、ICTの利活用、児童生徒に対する支援のあり方について学修します。そのため、本コースには、初等教育主免専攻と中等教育主免専攻という2つの専攻を設置します。

①初等教育主免専攻

小学校教諭1種免許を取得するための各教科等の基礎知識を身につけ、児童の発達段階を理解し、発達段階に応じた授業作りをどの教科等についても行います。更に、1教科については、中学校教育の基礎的事項を習得した上で、中学校での学習との接続を踏まえて小学校の教材や指導法を開発することができる教員を養成します。

②中等教育主免専攻

児童・生徒の青年期にかかる発達段階を理解し、小学校での学びを受けてその成長を進められる教科等の授業作りを行い、高校への学習につなぐことができる教員を養成します。小学校教育について理解した上で、中学校の1つの教科について十分な知識と技能を身につけ、その教科の内容や指導法について深く探究することを目標としています。

(4) 教育課程の特色

- 幼小連携教育コースでは「幼小連携教育論」「幼児・児童発達論」の授業科目、小中連携教育コースでは、「小中連携教育内容研究」「小中連携教育論」（教科ごとに開設）の授業科目を中心に、異校種間の教育の連携・接続の問題を扱う機会を増やします。
- 高度な指導力・授業力を身につけた教員を養成するために、実践的な授業科目をさらに増やすとともに、各学年において充実した教育実習を実施します。
- 課程共通の必修科目として、「小学校英語活動」「小学校英語内容論」を開設し、小学校教員免許を取得するすべての学生に、小学校での英語教育を担える素地を養成します。
- どの専攻においても小学校教諭免許取得が求められますが、さらに所定の科目を履修することにより、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、中学校教諭（国語，社会，数学，理科，音楽，保健体育，技術，家庭，英語），高等学校教諭（国語，書道，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，保健体育，家庭，英語）の免許を取得することが可能です。

Ⅱ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

各学部の入学者受入れの方針

教 育 学 部

【1】求める学生像

教育学部では、子どもの心身の発達や学びを支える教育の充実、確かな学力の形成、小学校段階での英語教育の充実、科学的思考力の育成、ICT を利活用した教育の充実など、複雑で多様な地域の数多くの教育課題に対応できる高度な指導力を身につけた教員の養成を目指します。各コースの目的と求める学生像は以下の通りです。

■幼小連携教育コース

現在の家庭・学校・地域が抱える教育的課題を解決するための教育学や心理学、幼児教育、特別支援教育の専門的知識を身につけ、幼児期から児童期にかけての子どもたちの心身の発達や学びを支えるための教育能力をもった教員を養成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 小学校の全教科に関する学習と、心理学・教育学・幼児教育の学習や特別支援教育の学習に意欲を持って取り組める人
- ② 幅広い基礎的学力や技能を備え、家庭・学校・地域が抱える教育的課題や子どもたちの心身の発達、学びを支える教育について関心を持ち、幼稚園、認定こども園、小学校、または特別支援学校の教員を目指す人

〔幼小連携教育コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば積極的に挑戦することを期待します。

■小中連携教育コース

小学校から中学校までの9年間を一体としてとらえて、児童生徒の学習意欲を高め、学力を向上させていくための指導法や教材について学び、充実した教育実習を各学年で行うことにより、高度な教育実践力をもった教員を養成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 小学校の全教科に関する学習と、中学校のいずれかの教科の学習に意欲を持って取り組める人
- ② 幅広い基礎的学力や技能を備え、小学校から中学校への教育の接続の問題や各教科の教育に

ついて関心を持ち、小学校、中学校、小中一貫校の教員を目指す人

〔小中連携教育コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

文系，理系に偏らず，高等学校で履修する全ての教科・科目について，基礎的な知識を幅広く学習し，自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。なお，技能が重要視される教科については，基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来，小学校や中学校などの教師として活躍するためには，初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち，読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など，教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば，積極的に挑戦することを期待します。

【2】 入学者選抜の基本方針

教育学部の教育理念に基づき，教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために，開放性，客観性，公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために，大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では，「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により，異なる観点から入学者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために，大学入試センター試験によって，高等学校までの学習到達度を評価します。また，個別学力検査においては，専門科目を理解するために必要な基礎学力または適性を有しているかを，英語および国語または数学（いずれか1教科）によって評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために，大学入試センター試験によって，高等学校までの学習到達度を評価します。また，個別学力検査においては，専門科目を理解するために必要な基礎学力または適性を有しているかを，英語および小論文によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により，多様な能力や資質を有し，本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では，「推薦入試Ⅰ」，「推薦入試Ⅰ（佐賀県枠）」および「AO入試」の3つの入試区分により，入学者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文、基礎学力試験によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、小論文によって評価します。さらに、明確な志望動機、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員を目指す強い意志、入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅰ（佐賀県枠）】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文、基礎学力試験によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、小論文によって評価します。さらに、明確な志望動機、佐賀県下の小学校教員を目指す強い意志、入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【AO入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、活動実績報告書、小論文、面接試験、適性検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、教職を目指す強い意志、入学後の学習意欲等を有しているかを書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、日本留学試験、TOEFLの成績、日本語作文および面接試験によって、入学後の学習に必要な語学力について評価します。また、大学で学習するために必要な基礎学力（汎用的な能力、専門科目を理解できる基礎学力および適性を含む）を有しているかを、日本留学試験と書類審査（成績証明書等）によって評価します。さらに、教育学部に対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、面接試験によって評価します。

教育学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース・専攻
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目(または6教科7科目)の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試(前期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		調査書によって、高等学校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ:佐賀県枠を含む)	幼小連携教育コース(特別支援教育専攻) 小中連携教育コース(初等教育主免専攻)
			特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		小論文によって、問題理解力、文章構成力、論理性、表現力、知識について評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
			特別入試(推薦入試Ⅰ:佐賀県枠を含む)	幼小連携教育コース(特別支援教育専攻) 小中連携教育コース(初等教育主免専攻)
			特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
		基礎学力試験によって、外国語(英語)について高等学校教科書レベルの基礎学力を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ)	幼小連携教育コース(特別支援教育専攻)
		基礎学力試験によって、外国語(英語)と数学について高等学校教科書レベルの基礎学力を評価します。	特別入試(推薦入試Ⅰ(佐賀県枠))	小中連携教育コース(初等教育主免専攻)
		日本留学試験において、文系科目または理系科目の成績を用いて、基礎的な学力を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
	日本語作文および面接試験において、基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース	
	書類審査(成績証明書等)において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース	
	TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース	
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、5教科7科目(または6教科7科目)の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試(前期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
		個別学力検査において、高等学校で履修する英語の基礎的な知識だけでなく、長文読解力、論理的思考力および表現力等を有しているかを記述式によって評価するとともに、国語と数学のいずれか1教科について、標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力を記述式によって評価します。	一般入試(前期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
			個別学力検査において、高等学校で履修する英語について、基礎的な知識だけでなく、長文読解力、論理的思考力および表現力等を有しているかを記述式によって評価します。	一般入試(後期日程)
		小論文によって、問題理解力、文章構成力、論理性、表現力、知識について評価します。	一般入試(後期日程)	幼小連携教育コース 小中連携教育コース
			特別入試(推薦入試Ⅰ:佐賀県枠を含む)	幼小連携教育コース(特別支援教育専攻) 小中連携教育コース(初等教育主免専攻)
			特別入試(AO入試)	小中連携教育コース
適性検査において、志望分野で学ぶために必要な基礎能力および適性について評価します。		特別入試(AO入試)	小中連携教育コース	
面接試験において、志望分野で学ぶために必要な基礎能力および適性について評価します。		特別入試(AO入試)	小中連携教育コース	
活動実績報告書によって、志望領域に関するこれまでの活動実績を評価します。		特別入試(AO入試)	小中連携教育コース	
書類審査(成績証明書等)において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース		

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース・専攻
興味・関心・態度・意欲	志望コース・専攻で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	幼小連携教育コース （特別支援教育専攻）
		志望理由書における志望理由を評価します。	特別入試 （推薦入試Ⅰ（佐賀県枠））	小中連携教育コース （初等教育主免専攻）
		志願理由書における志願理由を評価します。	特別入試（AO入試）	小中連携教育コース
		活動実績報告書によって、志望領域に関するこれまでの活動実績を評価します。	特別入試（AO入試）	小中連携教育コース
		面接試験において、志望コース・専攻で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試 （推薦入試Ⅰ：佐賀県枠を含む）	幼小連携教育コース （特別支援教育専攻） 小中連携教育コース （初等教育主免専攻）
			特別入試（AO入試）	小中連携教育コース
		面接試験において、教育学部で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	私費外国人留学生入試	幼小連携教育コース 小中連携教育コース

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項、AO入試学生募集要項、私費外国人留学生入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

芸術地域デザイン学部

【1】求める学生像

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの目的と求める学生像は以下の通りです。

■芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み、芸術を自ら創造・表現し、美術・工芸や有田セラミックの専門的知識を身につけ、マネジメントとともに共同参画することで、地域創生に貢献する人材を養成します。そのために以下のような学生を求めています。

- ① 高等学校で習得すべき基礎的学力と芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有する人
- ② 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力などを有する人
- ③ 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術表現を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力等を有する人
- ④ 意欲的かつ継続的な芸術の研究や自主的な芸術の活動を目指す人
- ⑤ 将来、企業で美術に関わる仕事をする者、美術・工芸作家、造形・セラミック技術者、デザイナー、美術・工芸の販売や流通に関わる仕事、中学校・高等学校の美術教員、また、広くメディアに関わる仕事を志望する人

[芸術表現コースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく3つの事を意識してください。1つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実にかかる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が生まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生活が送れるはずです。

■地域デザインコース

キュレーター（学芸員）やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材、また、まちづくり、地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献

できる人材を養成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 高等学校で習得すべき基礎的学力と発想力、また、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識を有する人
- ② 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力などを有する人
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる一定の語学力を有する人
- ④ 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力等を有する人
- ⑤ 主体的にものごとに取り組み、積極的に行動できる人
- ⑥ 意欲的かつ継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲のある人
- ⑦ 将来、キュレーター（学芸員）やアートコーディネーターとなることを、また、自治体・企業等で文化振興、文化財保存やまちづくり等に携わる仕事を志望する人

【地域デザインコースで学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

本コースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける4年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かり易く、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

【2】 入学者選抜の基本方針

芸術地域デザイン学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査

においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力、適性および技術を有しているかを、各コースが指定する評価方法（総合問題、実技検査）によって評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、個別学力検査においては、専門科目を理解するために必要な基礎学力、適性および技能を有しているかを、各コースが指定する評価方法（学力検査、問題解決・提案力テスト、実技検査）によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「AO入試」の2つの区分により、入学者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、推薦書によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、適性および技能を有しているかを、ポートフォリオ、実技検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、入学後の学習意欲等を有しているかを、書類審査と面接試験によって評価します。

【AO入試】（芸術表現コース）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書と適性検査によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、ポートフォリオ、適性検査によって評価します。さらに、明確な志望動機、入学後の学習意欲等を有しているかを書類審査と適性検査によって評価します。

【AO入試】（地域デザインコース）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを、調査書、小論文およびプレゼンテーション資料によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力および適性を有しているかを、小論文、プレゼンテーション資料、グループディスカッションによって評価します。さらに、明確な志望動機、入学後の学習意欲等を有しているかを書類審査（特色加点を含む）によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために私費外国人留学生入試を行います。本入試では、日本留学試験、TOEFL、日本語作文（地域デザインコース）および面接試験によって、入学後の学習に必要な語学力について評価します。また、大学で学習するために必要な基礎学力（汎用的な能力および専門科目を理解できる基礎学力または適性を含む）を有しているかを、日本留学試験、書類審査（成績証明書等）、実技検査（芸術表現コース）によって評価します。さらに、各コースに対する明確な志望動機や入学後の学習意欲等を有しているかを、面接試験によって評価します。

芸術地域デザイン学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース
知識・学理・解・に・必要・考・判・断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、3教科3科目の国語、外国語を中心とした基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、3教科4科目（または4教科4科目）の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		大学入試センター試験において、4教科4科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（後期日程）	地域デザインコース
		総合問題によって、読解力、論理的思考力、分析力、考察力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		調査書によって、高等学校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（AO入試）	芸術表現コース
		適性検査によって、基本的な学習能力を評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		プレゼンテーション資料によって、読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		日本留学試験において、コースが指定した科目について基礎的な学力を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
	日本語作文および面接試験において、基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試	地域デザインコース	
	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース	
	TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース	
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、3教科3科目の国語、外国語を中心とした基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、3教科4科目（または4教科4科目）の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	芸術表現コース
		大学入試センター試験において、5教科5科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		大学入試センター試験において、4教科4科目の主要科目についての基礎学力を評価します。	一般入試（後期日程）	地域デザインコース
		総合問題によって、読解力、論理的思考力、分析力、考察力を評価します。	一般入試（前期日程）	地域デザインコース
		問題解決・提案力テストによって、企画力、発想力、表現力等を含む問題解決能力及び提案力を評価します。	一般入試（後期日程）	地域デザインコース
		実技検査によって、基本的な技術を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 私費外国人留学生入試	芸術表現コース
適性検査によって、基本的な学習能力を評価します。		特別入試（AO入試）	芸術表現コース	
ポートフォリオによって、これまでの作品や実績、表現力を評価します。		特別入試（AO入試） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	芸術表現コース	

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な基礎学力および適性	小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		プレゼンテーション資料によって、読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		グループディスカッションにより、問題理解力、論理性を総合的に評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
興味・関心・態度・意欲	志望コースで学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	芸術表現コース
		志願理由書において、学習意欲を評価します。	特別入試（AO入試）	芸術表現コース 地域デザインコース
		適性検査によって、修学意欲や自主性を評価します。	特別入試（AO入試）	芸術表現コース
		グループディスカッションにより、コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップ、主体性、積極性、修学意欲等を評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース
		面接試験において、志望コース・分野で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）	芸術表現コース
			私費外国人留学生入試	芸術表現コース 地域デザインコース
特色加点申請書（申請者のみ）によって、志望領域に関するこれまでの活動実績を評価します。	特別入試（AO入試）	地域デザインコース		

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項、AO入試学生募集要項、私費外国人留学生入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

経 済 学 部

【1】求める学生像

経済学部は、経済学・経営学・法律学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■経済学科

経済学科は、経済の理論と政策を学び、現代の経済と社会の仕組みについて総合的に考え、幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的にしています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 現代に生起している問題に関心をもち、経済と社会の仕組みを理解しようとする意欲を持つ人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

[経済学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に記述する国語力が求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。社会問題への関心と情報収集能力が必要です。

国際性が求められる時代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

■経営学科

経営学科は、企業の経営・会計を学び、企業経営について幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的にしています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 企業の経営や会計を学びたいという強い意欲を持つ人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

[経営学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報に基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に記述する国語力が求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目の基本的な知識と技能を習得しておくことが望まれます。

国際性が求められる時代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。一方、社会問題への関心と情報収集能力が必要です。また、経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

■経済法学科

経済法学科は、経済と社会の規範である法律を学び、法政策について幅広い視野と専門知識をもつ人材を育てることを教育の目的としています。そのために、以下に示すような学生像を求めています。

- ① 現代の経済と社会の仕組みや規範について考えることに関心のある人
- ② 様々な社会現象を理解するために必要な幅広い基礎学力を有している人
- ③ 社会の変化に対応するために、生涯に亘って学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学修能力を大学で得たいと考えている人

[経済法学科で学ぶために必要な能力や適性及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

経済と社会の規範である法律について理解するためには幅広い基礎知識が必要です。法律の用語や内容を理解するためには国語力が不可欠です。法律を学ぶには社会と政治についての知識が必要で、そのためには、歴史や地理などの幅広い知識は重要なものとなります。国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。

そして、経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に関心を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

【2】入学者選抜の基本方針

経済学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての人を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解するために必要な基礎学力として、国際的な視野で情報を収集し理解するための英語力を有しているかを判断するために、個別試験によって英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、社会科学の専門知識を得るために必要な基礎学力として、文献や資料の読解力と論理的思考能力および表現力を有しているかを判断するために、個別試験の小論文によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」（「普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦」と「商業系の科、情報系の科、総合学科推薦」の2区分）により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。本学部の選考では、大学で学修するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書によって高等学校での学習達成度を評価するとともに、専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性を有しているかを判断するために小論文を課し、書類審査と口頭試問によって本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を評価します。なお、商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした区分では、簿記検定などの資格取得といった経済学部の勉学に関連した学習実績も評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学修するために必要な基礎学力として、日本語試験と日本語による口頭試問を行い、日本留学試験の結果と合わせて、入学後の学修に必要な語学力を持っているかを判断します。それと同時に、日本留学試験、書類審査、口頭試問によって、汎用的な学力および専門科目を学ぶために必要な基礎学力を評価します。さらに、本学部に対する明確な志望動機や入学後の学修意欲を有しているかを評価するために、書類審査と口頭試問を行います。

経済学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		面接試験において、基礎的な日本語能力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力および適性	大学入試センター試験において、4教科5科目の主要教科についての基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験で、高校で履修する「英語」における、基礎的な英文の読解力および英語作文力を記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書によって、高校時代に取得した資格を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） ※商業系の科、情報系の科、総合学科推薦のみ
		口頭試問によって、本学部で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、文系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	私費外国人留学生入試
		興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲
推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）		
志願者本人の自筆の作文によって、志望理由、入学後の意欲等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）		
面接試験において、本学部で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 私費外国人留学生入試		

医 学 部

【1】求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良い医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
- ② 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
- ③ 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
- ④ 医学を学ぶために必要な基礎的学力・能力を備えている人
- ⑤ 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

【医学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学の要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボランティア活動、医療関連先輩との交流などの取組みを通じて、自らキャリアデザインを考える積極的な姿勢が望まれます。

■看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- ② 豊かな感性と表現力を身につけている人
- ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人

〔看護学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。これらの健康のしくみには、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取り組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

【2】 入学者選抜の基本方針

医学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力、明確な志望動機や入学後の意欲等、医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、学力検査(医学科)、小論文(看護学科)、面接試験および調査書によって評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、個別試験において、調査書、自己推薦書および面接試験によって評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質および経験を有し、そして本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」（看護学科）、「推薦入試Ⅱ」（医学科）、「佐賀県推薦入学」（医学科）、「帰国子女」（医学科）、「社会人」（看護学科）の5つの入試区分により、入学希望者を選考します。なお、「推薦入試Ⅱ（佐賀県枠）」と「佐賀県推薦入学」については、将来、佐賀県内の医療活動に、また「推薦入試Ⅱ（長崎県枠）」については、将来、長崎県内の医療活動に貢献したいという強い意志を持つ者を対象とします。

【推薦入試Ⅰ】（看護学科）

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、調査書と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】（医学科）

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験と調査書によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【佐賀県推薦入学】（医学科）

出願要件を満たし、佐賀県から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって高等学校までの学習到達度を評価すると同時に、小論文によって、科学的あるいは論理的思考力および問題解決能力について評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】（医学科）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【社会人】（看護学科）

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学

力を有しているかを判断するために、書類審査と小論文によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験（看護学科）

短期大学及び専修学校の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象に3年次編入学試験を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、小論文と書類審査によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試（医学科）

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、日本留学試験、TOEFLの成績および書類審査によって評価します。さらに、明確な志望動機や入学後の意欲等および医療従事者としての適性を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

医学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	評価方法	入試方法	対象学科
知識・理解・思考・判断	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
	大学入試センター試験において、5教科6科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）	看護学科
	個別試験において、高校で履修する数学、英語、物理、化学について、標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
	調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人） 3年次編入学試験	看護学科
	書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
	日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試	医学科
	日本留学試験と面接試験において、基本的な日本語力を評価します。	私費外国人留学生入試	医学科
TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試	医学科	
興味・関心・態度・意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	自己推薦書の内容について評価します。	一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）	医学科
		一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	推薦書において、推薦の理由を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学）	医学科
		特別入試（推薦入試Ⅰ）	看護学科
	面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ） 特別入試（佐賀県推薦入学） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試	医学科
		一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（社会人） 3年次編入学試験	看護学科

理 工 学 部

【1】求める学生像

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人
- ② 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人

〔数理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

■物理科学科

物理科学科では、広範な自然現象を理解する試みを通して、現代の科学技術を支える学力と、柔軟性に富んだ豊かな発想力を培い、広い分野で活躍できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 理数系科目の学力に優れ、自然科学に対して強い興味を持つ人

〔物理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められま

す。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■知能情報システム学科

知能情報システム学科では、情報科学及び情報工学の学問領域における専門知識・能力及び広い視野を持ち、知識基盤社会を担う人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 一般的な基礎学力を備え、特に数学、理科の学力を備えた人
- ② IT に対する興味と基礎知識がある人
- ③ ソフトウェア開発や情報システムの構築に取り組む意欲のある人

[知能情報システム学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

知能情報システム学科では、IT の理論の専門基礎を重点的に教育します。そのため、高等学校で数学及び理科の基礎事項を理解し、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。文書作成、口頭発表の能力を育成しますので、国語の学力が重要です。専門文献を読むため及び国際社会で活躍するための語学教育に必要な英語の学力も要求します。また、幅広い文化、自然、社会の素養を修得するために広範な基礎学力も必要です。本学科では、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力などを育成します。したがって、良識的に行動し、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

■機能物質化学科

機能物質化学科では、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 日頃から身の回りにある物質・材料がどのような化合物からできていて、その機能はどのような原理に基づいているのかを興味を持って調べ、自らの手で新しい機能物質を創り出すことに意欲を持つ人
- ② 化学はもちろん生物・物理・数学など理数系科目が得意で、国語・社会・英語などの基礎学力を身に付けた人

[機能物質化学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

化学は、物質の構造や機能の関係性を明らかにするために、様々な物質を詳細に調べ、新しい物質の合成や分解を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、

高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生物的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

■機械システム工学科

機械システム工学科では、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにもものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。

- ① 理数系の基礎学力とともに倫理観を持ち、「ものづくり」に興味のある人

[機械システム工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学と物理および化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、講義を理解して、レポートを作成したり、自分が調べたものを発表するためには、読解力や記述力を中心とする国語能力だけでなく、現代社会の仕組みや歴史、文化など高等学校の社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに、英文の読解や作成、外国人とのコミュニケーションなど様々な分野で将来的に活躍するためには、高等学校で学ぶ基礎的な英語力は欠かせないものです。そして、ものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

■電気電子工学科

電気電子工学科では、電気工学及び電子工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① エレクトロニクスや情報通信関連のハードウェアやソフトウェアなどの「もの創り」への関心を持ち、あるいは世界的視野に立ったエネルギーや環境問題などにも興味を持った意欲ある人
- ② 高校時代においては数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけた人

[電気電子工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み]

電気電子工学科に入学した学生は、日本の誇る大企業や九州の有力企業をはじめとする社会の第一線で活躍できるよう、電気電子工学に関連した様々な理数系専門科目を学びます。技術文書を正確に書く練習や、技術英語の修得も行います。そして、それらを駆使して社会に役立つもの

を創り出す研究活動も行います。そのため、入学時点で、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかり身につけていることが必要です。国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。高校等での学習においては、教科書の範囲で解ける標準的な問題を、確実に解けるようにすることを望みます。社会で活躍できることを目指して育成しますので、もの創りへの関心や、エネルギーや環境問題等への興味が必要であり、男女を問わず意欲ある人の入学を望みます。

■都市工学科

都市工学科では、都市工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。

- ① 私たちの暮らしを支える社会基盤や自然環境、建築デザインなどに興味のある人
- ② 専門教育に必要な基礎学力と勉学意欲を有している人
- ③ 自律的な学習を支える責任感、チャレンジ精神とやり遂げる強い意志を持つ人

〔都市工学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

都市における交通体系や水・エネルギー供給のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤・施設の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学科では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、都市工学科の志願者には、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などが求められます。

【2】入学者選抜の基本方針

理工学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって数学と理科、英語の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、各学科の専門科目と特に関係の深い教科および科目について高い学力を有しているかを判断するために、個別試験によって各学科が指定する科目の学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」、「推薦入試Ⅱ」及び「帰国子女」の3つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、調査書、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【推薦入試Ⅱ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力、適性および明確な入学の意思を有しているかを判断するために、調査書と推薦書によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

各学科の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」、「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

【一般入試】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

【推薦入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【外国人留学生特別入試】

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

理工学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価する。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理、化学および英語に関する標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学の中から1つの科目について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		調査書において、専門科目を理解できる基礎学力及び適性を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅱ）
		学力検査において、数学、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（推薦入試Ⅱ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試

農 学 部

【1】求める学生像

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

■応用生物科学科

応用生物科学科では、生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等についての理解と関心がある人
- ② 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

〔応用生物科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〕

生物に対する興味があり、生物の機能また生物が生育する環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人、留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

■生物環境科学科

生物環境科学科では、3つのコースにおいて次のような人材を育成します。生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- ② 永続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲があ

る人

- ③ 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

[生物環境科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

人間を含む生物やそれを取り巻く環境及び人間社会に対する興味があり、これらを総合的に学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学の課題にはグローバルな問題が多くあり、それを解決する糸口を得るため、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が望まれます。

■生命機能科学科

生命機能科学科では、科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- ② 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人

[生命機能科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み]

生命現象に対する科学的興味があり、微生物から高等生物までの生命体が持つ機能について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

【2】 入学者選抜の基本方針

農学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

一般入試

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

【前期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」と「英語」の基礎学力を評価します。

【後期日程】

大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を深く理解するために必要な数理的な思考力・表現力に関する高い能力を有しているかを判断するために、個別試験によって、「数学」の基礎学力を評価します。

特別入試

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「帰国子女」の2つの入試区分により、入学希望者を選考します。

【推薦入試Ⅰ】

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(調査書、推薦書、作文等)、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

【帰国子女】

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として、汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査(成績証明書等)、小論文

および口頭試問によって評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問と小論文によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

編入学試験

短期大学及び専修学校の卒業者等で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者学生を対象に3年次編入学試験を行います。

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、書類審査（成績証明書等）、学力検査（英語）、口頭試問および面接試験等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

私費外国人留学生入試

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力として、日本留学試験、TOEFLの成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査（成績証明書等）および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を学ぶために必要な基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

農学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		書類審査（成績証明書等）において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試（帰国子女）
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価します。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFLの得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試（前期日程） 一般入試（後期日程）
		個別試験において、高校で履修する「数学」について、標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力を記述式によって評価します。また、「英語」では、長文読解力、論理的思考力等を有しているかについて記述式によって評価します。	一般入試（前期日程）
		個別試験において、高校で履修する数学について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試（後期日程）
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女）
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）
		学力検査において、英語文章の読解力について評価します。	3年次編入学試験（一般入試）
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試（推薦入試Ⅰ）
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試（推薦入試Ⅰ） 特別入試（帰国子女） 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験（一般入試）

Ⅲ 学部，学科・課程等及び募集人員等

募集人員等 学部，学科・課程等名			入学 定員	募 集 人 員								備 考
				一般入試		特 別 入 試						
				前期 日程	後期 日程	推薦入試Ⅰ (大学入試セン ター試験を 課さない)	推薦入試Ⅱ (大学入試 センター試 験を課す)	帰国 子女	社会人	佐賀県 推薦入学	AO 入試	
教育学部 (改組予定※)	学校教育課程	幼小連携教育コース	25	15	5	-	-	-	-	-	-	○初等教育主免専攻の推薦入試における募集人員5人は、佐賀県枠で募集します。 ○幼小連携教育コース（推薦入試は除きます。）は、入学後それぞれの専攻に分かれます。
		幼小発達教育専攻 特別支援教育専攻				5						
	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	70	43	12	5	-	-	-	-	10	
		中等教育主免専攻	25	12	5	-	-	-	-	-	8	
	小	計	120	70	22	10	-	-	-	-	18	
芸術地域デザイン学部 (設置予定※)	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	55	33	12	4	-	-	-	-	-	6
		地域デザインコース	55	25	15	-	-	-	-	-	15	
	小	計	110	58	27	4	-	-	-	-	21	
経済学部	経済学科	110	70	20	20	-	-	-	-	-	○一般入試は、3学科の中から順位を付けて第3志望まで志望できます。	
	経営学科	80	30	20	30	-	-	-	-	-		
	経済法学科	70	35	25	10	-	-	-	-	-		
	小	計	260	135	65	60	-	-	-	-		-
医学部	医学科	106	50	10	-	*44	若干人	-	-	2	○医学科の推薦入試における募集人員44人は、一般枠20人、佐賀県枠23人、長崎県枠1人とします。 ○看護学科の推薦入試における募集人員20人のうち、2人以内を専門系の科及び総合学科から募集します。	
	看護学科	60	35	5	20	-	-	若干人	-	-		
	小	計	166	85	15	20	44	-	-	2		
理工学部	数理科学科	30	24	6	-	-	各学科 若干人	-	-	-	○一般入試（前期日程）は、7学科の中から順位を付けて第2志望まで志望できます。 ○機能物質化学科は、入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。 ○都市工学科は、入学して1年半後にそれぞれのコースに分かれます。	
	物理科学科	40	32	8	-	-						
	知能情報システム学科	60	45	10	2	3						
	機能物質化学科	物質化学コース	90	62	16	2						10
		機能材料化学コース										
	機械システム工学科	90	58	17	5	10						
	電気電子工学科	90	60	22	4	4						
	都市工学科	都市環境基盤コース	90	61	15	14						-
建築・都市デザインコース												
小	計	490	342	94	27	27						
農学部	応用生物科学科	45	25	10	10	-	各学科 若干人	-	-	-	○一般入試は、3学科の中から順位を付けて第2志望まで志望できます。 ○生物環境科学科は、入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。	
	生物環境科学科	生物環境保全学コース	60	30	15							15
		資源循環生産学コース										
		地域社会開発学コース										
	生命機能科学科	40	30	5	5							
小	計	145	85	30	30							
合	計	1,291	775	253	151	71	-	-	2	39		

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項、AO入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

（備考）推薦入試Ⅰ、佐賀県推薦入学特別入試及び教育学部のAO入試の合格者（入学手続き者）が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の前期日程の合格者で補充します。また、推薦入試Ⅱの医学部医学科については、一般入試の後期日程の合格者で補充します。AO入試の芸術地域デザイン学部及び推薦入試Ⅱの理工学部については、一般入試の合格者で補充します。

後期日程の募集人員には、帰国子女特別入試及び社会人特別入試の募集人員（若干人）を含みます。

* 医学科の推薦入試Ⅱ佐賀県枠には「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれ、長崎県枠には「長崎県医学修学資金」が貸与されます。なお、詳細は推薦入試募集要項に掲載します。

IV 出願資格

本学へ出願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

1 一般入試

- ① 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」といいます。）を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者

（注）同条第7号により出願を希望する者は、事前に入学資格認定の審査を行います。

※申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により、入学資格の認定を受けようとする者は、平成27年8月26日(水)までに申請するものとします。

ただし、他大学において入学資格の認定を受け、平成28年度大学入試センター試験に出願し、受理された者については、平成28年1月20日(水)までに申請するものとします。

申請書類を郵送する場合は、必ず書留郵便とし封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書してください。

【申請先】〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課 あて

〈参考〉学校教育法施行規則第150条第7号

大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

※上記出願資格以外に、平成28年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目(50ページから59ページ参照)のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

2 特別入試（推薦入試Ⅰ，推薦入試Ⅱ）

- ① 高等学校若しくは中等教育学校を平成28年3月卒業見込みの者
- ② 特別支援学校の高等部を平成28年3月卒業見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成28年3月修了見込みの者

ただし、医学部医学科【佐賀県枠】及び【長崎県枠】は平成26年4月以降に卒業（修了）を認められた者、経済学部、医学部医学科【一般枠】及び看護学科は平成27年度中に卒業（修了）を認められた者、理工学部の推薦入試Ⅱについては平成27年3月に卒業（修了）した者の出願を認めます。

また、61ページから80ページの特別入試（推薦入試Ⅰ，推薦入試Ⅱ）において記載している「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設とします。

3 特別入試（帰国子女，社会人，佐賀県推薦入学，AO入試）及び私費外国人留学生入試

81ページから94ページを参照してください。

V 選抜方法

入学者の選抜は、一般入試（前期日程、後期日程）及び特別入試（推薦入試Ⅰ、推薦入試Ⅱ、帰国子女、社会人、佐賀県推薦入学、AO入試）並びに私費外国人留学生入試により行います。本学では、大学入試センター試験の過年度成績は利用しません。

1 一般入試

(1) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の成績、調査書の内容を総合的に判断し、合格者を決定します。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目及び個別学力検査等の教科・科目等は、46ページから59ページを参照してください。

医学部医学科においては、入学志願者が、募集人員を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合（前期日程は募集人員の約5倍、後期日程は約10倍）に、2段階選抜を実施します。

(2) 本学が課す大学入試センター試験の受験を要する教科・科目と個別学力検査等の教科・科目等のうち一つでも受験しなかった者は、失格とします。

(3) 採点・評価基準、合否判定基準は、募集要項に掲載します。

(4) 入学手続締切後、入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格者を決定し補充することとしますが、欠員補充第2次募集を行うこともあります。

2 特別入試

(1) 推薦入試……61ページから80ページ「特別入試（推薦入試Ⅰ、推薦入試Ⅱ）」を参照してください。（推薦入試Ⅱについては、46ページから48ページも参照してください。）

(2) 帰国子女……81ページから82ページ「特別入試（帰国子女）」を参照してください。

(3) 社会人……83ページ「特別入試（社会人）」を参照してください。

(4) 佐賀県推薦入学……84ページから85ページ「特別入試（佐賀県推薦入学）」を参照してください。

(5) AO入試……86ページから92ページ「特別入試（AO入試）」を参照してください。

3 私費外国人留学生入試……93ページから94ページ「私費外国人留学生入試」を参照してください。

平成28年度 一般入試（前期日程）

入試方法等 学部、学科・課程等名			個別学力検査等							個別 学力 検査 等 の 日 程	備考 （欠員の 補充の 方法等）		
			個別 学力 検査 を 課 す る	実技検査等				2段階選抜				第1段階の 選抜による 合格者数	そ の 他
				実 技 検 査 を 課 す る	面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る	総 合 問 題 を 課 す る	外 国 語 に お け る リ ス ニ ン グ を 課 す る	主として、 調査書と センター 試験の成 績により 第1段階 選抜を行 うに必要 な検査を 行う				
教 育 学 部 (改組予定※)			○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日	入学定員に欠員が生じたときは、原則として追加合格補充することとするが、欠員補充第2次募集を行うこともある。	
芸術地域デザイン学部 (設置予定※)	芸術表現	×	○	×	×	×	×	×	×	×			
	地域デザイン	×	×	×	×	○	×	×	×	×			
経 済 学 部			○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日 ～26日		
医 学 部	医 学 科	○	×	○	×	×	×	○	約5倍	×			
	看 護 学 科	×	×	○	○	×	×	×	×	×			
理 工 学 部			○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日		
農 学 部			○	×	×	×	×	×	×	×			

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

平成28年度 一般入試（後期日程）

入試方法等 学部、学科・課程等名			個別学力検査等							個別 学力 検査 等 の 日 程	備考 （欠員の 補充の 方法等）		
			個別 学力 検査 を 課 す る	実技検査等				2段階選抜				第1段階の 選抜による 合格者数	そ の 他
				実 技 検 査 を 課 す る	面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る	問 題 解 決 ・ 提 案 力 テ ス ト を 課 す る	外 国 語 に お け る リ ス ニ ン グ を 課 す る	主として、 調査書と センター 試験の成 績により 第1段階 選抜を行 う 合格者 について 必要な 検査を 行う				
教 育 学 部 (改組予定※)			○	×	×	○	×	×	×	×	3月12日	入学定員に欠員が生じたときは、原則として追加合格補充することとするが、欠員補充第2次募集を行うこともある。	
芸術地域デザイン学部 (設置予定※)	芸術表現	×	○	×	×	×	×	×	×	×			
	地域デザイン	○	×	×	×	○	×	×	×	×			
経 済 学 部			×	×	×	○	×	×	×	×	3月12日 ～13日		
医 学 部	医 学 科	×	×	○	×	×	×	×	○	約10倍			×
	看 護 学 科	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×		
理 工 学 部			○	×	×	×	×	×	×	×	3月12日		
農 学 部			○	×	×	×	×	×	×	×			

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

平成28年度 特別入試（推薦入試）

入試方法等			推 薦 入 試								推薦入試募集人員	佐賀県推薦入学
			入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する									
			推薦入試Ⅰ	推薦入試Ⅱ	実 技 検 査 等					その他		
			個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する	実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスグを課する				
学部, 学科・課程等名												
教育学部 (改組予定※)	学校教育課程	幼小連携教育コース	特別支援教育専攻	○	×	×	○	○	×	○ (注1)	5人	×
		小中連携教育コース	初等教育主免専攻 佐賀県枠	○	×	×	○	○	×	○ (注2)	5人	×
芸術地域デザイン学部 (設置予定※)	芸術地域デザイン学科		芸術表現コース	○	×	○	○ (注3)	×	×	×	4人	×
			地域デザインコース	推薦入試は募集しません。								
経済学部	経済学		経済学科	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	20人	×
	経営学		経営学科								30人	
	経済法学		経済法学科								10人	
医学部	医学		医学科	×	○	×	○	○	×	×	44人 (注4)	○ (注5)
	看護学		看護学科	○	×	×	○	○	×	×	20人	×
理工学部	数理解析学		数理解析学科	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	知能情報システム学		推薦Ⅰ	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	2人	×
			推薦Ⅱ	×	○	×	×	×	×	3人		
	機能物質化学		推薦Ⅰ	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	2人	×
			推薦Ⅱ	×	○	×	×	×	×	10人		
	機械システム工学		推薦Ⅰ	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	5人	×
			推薦Ⅱ	×	○	×	×	×	×	10人		
	電気電子工学		推薦Ⅰ	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	4人	×
			推薦Ⅱ	×	○	×	×	×	×	4人		
	都市工学		都市工学科	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	14人	×
農学部	応用生物科学		応用生物科学科	○	×	×	○ (注3)	○	×	×	10人	×
	生物環境科学		生物環境科学科								15人	
	生命機能科学		生命機能科学科								5人	

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項及び推薦入試Ⅰ（佐賀県枠）学生募集要項で必ず確認してください。

(注1) 基礎学力試験（外国語）を課します。

(注2) 基礎学力試験（外国語、数学）を課します。

(注3) 面接は、口頭試問を含みます。

(注4) 推薦入試における募集人員44人は、一般枠20人、佐賀県枠23人、長崎県枠1人としします。

(注5) 個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課します。

平成28年度 特別入試（AO入試）

学部, 学科・課程等名			入試方法等	A O 入 試				
				大学入試センター試験を課する	面接を行う	小論文を課する	適性検査を課する	募集人員
教育学部 (改組予定※)	学校教育課程 小中連携教育コース	初等教育主免専攻	×	○ (注)	○	○	10人	
		中等教育主免専攻					8人	
芸術地域デザイン学部 (設置予定※)	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	×	×	×	○	6人	
		地域デザインコース	×	×	○	○	15人	

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、AO入試学生募集要項で必ず確認してください。

(注) 面接は口頭試問を含みます。

平成28年度 特別入試（帰国子女・社会人等のための特別入試）

学部, 学科名		入試方法等	帰国子女	中国引揚者等子女	社会人
医学部	医学科		○	×	×
	看護学科		×	×	○
理工学部			○	×	×
農学部			○	×	×

○教科・科目名の表記について

1. 大学入試センター試験の利用教科・科目名は、次のように略しています。

教科名		科目名			
略称	正式な教科名	略称	正式な科目名	略称	正式な科目名
国	国語	国	国語		
地歴	地理歴史	世A	世界史A	世B	世界史B
		日A	日本史A	日B	日本史B
		地理A	地理A	地理B	地理B
公民	公民	現社	現代社会	倫	倫理
		政経	政治・経済	倫・政経	倫理, 政治・経済
数	数学	数I	数学I	数I・数A	数学I・数学A
		数II	数学II	数II・数B	数学II・数学B
		簿・会	簿記・会計	情	情報関係基礎
理	理科	物	物理	化	化学
		生	生物	地学	地学
外	外国語	英	英語	独	ドイツ語
		仏	フランス語	中	中国語
		韓	韓国語		

2. 個別学力検査の出題教科・科目名は、上記1と同様に略すほか、次のように略しています。

科目名					
略称	正式な科目名	略称	正式な科目名	略称	正式な科目名
国総	国語総合	国表	国語表現	数Ⅲ	数学Ⅲ
数A	数学A	数B	数学B	コ英I	コミュニケーション英語I
コ英II	コミュニケーション英語II	コ英III	コミュニケーション英語III	英表I	英語表現I
英表II	英語表現II	物基	物理基礎	化基	化学基礎

○平成28年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について

【地歴・公民】

- (1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合の取扱いについては、「第1解答科目」の得点を採用します。

学部・学科等が指定した科目は、必ず「第1解答科目」で受験してください。

- (2) 学部・学科等が指定する科目を「第1解答科目」で受験せず、「第2解答科目」で受験した場合は、0点として取扱います。

なお、受験が認められていない同一名称を含む科目の組み合わせで2科目を選択した際に、「第1解答科目」を学部・学科等が指定していない科目を受験し、「第2解答科目」で受験した場合は、無資格として取扱い、検定料の一部を返還します。

*参考（取扱い例）

地歴・公民の指定科目	第1解答科目 の受験科目	第2解答科目 の受験科目	得点の取扱い
世B, 日B, 地理B, 倫・政経から1	世B	地理A	第1解答科目の「世B」を採用
	地理A	世B	地歴・公民の得点は0点
	世A	世B	無資格とします。

【理科】

- (1) 「基礎を付した科目」とは、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」の4出題科目のうちから2出題科目を選択することを表します。

- (2) 「基礎を付していない科目」とは、「物理」、「化学」、「生物」及び「地学」を表します。

- (3) 学部・学科等が「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」から2科目と指定する場合に「物理」と「物理基礎」など、同一名称を付した科目を選択することはできません。

- (4) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に「基礎を付していない科目」から2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点を採用します。また、「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合は、高得点を採用します。

【数学】

- (1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合は、高得点の科目を採用します。

- (2) 医学部, 理工学部, 農学部については、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

【複数教科・科目間の選択にかかる得点の取扱いについて（指定科目数を超えて受験している場合）】

複数教科間の科目採用については、高得点順とします。ただし、地歴・公民及び理科（「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合を除く。）においては、「第1解答科目」を優先します。

【外国語】

外国語において英語を受験した者については、リスニングを受験してください。リスニング未受験の者については、失格とします。

(大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。)

筆記試験200点満点、リスニング50点満点を以下のとおり換算し、利用します。

学 部	日 程	筆記試験	リスニング	合 計
教育学部 (改組予定※)	前 期 後 期	160点	40点	200点
芸術地域デザイン学部 (設置予定※)	前 期 後 期	160点	40点	200点
経済学部	前 期 後 期	160点	40点	200点
医学部	前 期 後 期	112点	28点	140点
	推薦Ⅱ 佐賀県推薦	112点	28点	140点
理工学部	前 期	160点	40点	200点
	後 期	120点	30点	150点
	推薦Ⅱ	200点	50点	250点
農学部	前 期 後 期	80点	20点	100点

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

※リスニングを免除された者については、各学部とも、筆記試験(200点満点)の得点を合計欄の点数に換算し、利用します。

○平成28年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について

【数学】

出題範囲は次のとおりです。

- (1) 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B の場合

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Aは、全範囲から出題します。数学Bは「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

- (2) 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B の場合

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学Aは全範囲から出題します。数学Bは「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

【総合問題】

文章(英文を含む)や資料(図表，写真，絵，地図など)を題材に，読解力，論理的思考力，分析力，考察力を問います。

【問題解決・提案力テスト】

地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を，文章や図表，絵などにより，B3用紙に簡潔にまとめたものについて，企画力，発想力，表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価します。

○芸術地域デザイン学部の実技検査の選択方法と持参道具について

芸術表現コース（前期日程）

出願時に「3科目型」を選択した受験者には実技検査（描写表現）,「4科目型」を選択した受験者には実技検査（発想表現）を課します。実技検査（描写表現）では, (1)~(3)のいずれかを出願時に選択します。出願後の変更はできません。

実技検査（描写表現）

- (1) 木炭による石膏デッサン
- (2) 鉛筆による石膏デッサン
- (3) 水彩による静物着彩

実技検査（発想表現）

発想・企画プレゼンテーション

芸術表現コース（後期日程）

出願時に(1)~(4)のいずれかを選択します。出願後の変更はできません。

実技検査（描写表現）

- (1) 木炭による石膏デッサン
- (2) 鉛筆による石膏デッサン
- (3) 水彩による静物着彩

実技検査（発想表現）

- (4) 発想・企画プレゼンテーション

試験時には以下のものを持参してください。

◇木炭による石膏デッサン

木炭, 消し具（パン, 消しゴム, 練りゴム）, ガーゼ, 定着液等, 木炭デッサンに必要な描画道具一式。なお, 木炭紙, イーゼル, カルトンは大学で用意します。

◇鉛筆による石膏デッサン

鉛筆, 消し具（消しゴム, 練りゴム）, 鉛筆削り, 定着液等, 鉛筆デッサンに必要な描画道具一式。なお, 木炭紙大画用紙, イーゼル, カルトンは大学で用意します。

◇水彩による静物着彩

鉛筆, 消しゴム, 鉛筆削り, 水彩絵具（透明水彩に限ります）, 筆, 筆洗, 筆ふき, パレット等, 静物着彩に必要な描画道具一式。なお, 水彩用紙（B3サイズ）, イーゼルは大学で用意します。

◇発想・企画プレゼンテーション

鉛筆, 消し具（消しゴム, 練りゴム）, 鉛筆削り, 色鉛筆, パステル, 直定規, 三角定規, コンパス等。なお, イラストレーションボード, 下書き用紙は大学で用意します。

平成28年度佐賀大学入学者選抜（一般入試）における実施教科・科目等

学部・学科等名 及び入学定員等		学力検査等の 区分・ 日程		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		
				教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜
教育学部 学校教育 課程 (改組予定※) 120人 前期 70 後期 22 その他28	幼小連携教育コース 〔 幼小発達教育専攻 〕 〔 特別支援教育専攻 〕 25人 前期 15 後期 5 その他 5	前期 2月 25日	国	国【必須】 数Ⅰ、数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿・会、情から2	国 数 外	国総・国表 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B } から1 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・ 英表Ⅱ		
			地歴・ 公民 理 外	世B、日B、地理B、 現社、倫、政経、倫・政経 } から1又は2 物、化、生、地学、基礎を付した科目から1又は2 } から3 英、独、仏、中、韓から1				
	〔5教科7科目又は6教科7科目〕							
	後期 3月 12日	国	国【必須】 世B、日B、地理B、 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 数Ⅰ、数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1 物、化、生、地学、基礎を付した科目から1 英、独、仏、中、韓から1	外 その他	コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・ 英表Ⅱ 小論文			
〔5教科5科目〕								
小中連携教育コース 〔 初等教育主免専攻 〕 70人 前期 43 後期 12 その他 15	前期 2月 25日	地歴 公民 数理 外 2科目型	国	国【必須】 世B、日B、地理B、 現社、倫、政経、倫・政経 } から2 数Ⅰ、数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿・会、情から2 物、化、生、地学、基礎を付した科目から1 英、独、仏、中、韓から1	国 数 外	国総・国表 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B } から1 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・ 英表Ⅱ		
			地歴・ 公民 数理 外	世B、日B、地理B、 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 数Ⅰ、数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿・会、情から2 物、化、生、地学、基礎を付した科目から2 英、独、仏、中、韓から1				
	〔5教科7科目又は6教科7科目〕							
	後期 3月 12日	国	国【必須】 世B、日B、地理B、 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 数Ⅰ、数Ⅰ・数A、数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1 物、化、生、地学、基礎を付した科目から1 英、独、仏、中、韓から1	外 その他	コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・ 英表Ⅱ 小論文			
〔5教科5科目〕								
小中連携教育コース 〔 中等教育主免専攻 〕 25人 前期 12 後期 5 その他 8								

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等														特別の入試方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総 合 問 題	小論文	実技	面接	調査 書 等	その他	配 点 計	
センター試験	200	*(注1)		200	*(注1)	200							900	推 薦 外 国 人 追加合格 欠員補充
個別学力検査	*200			*200		200							400	
計	*400	*(注1)		*400	*(注1)	400							1300	
センター試験	200	*200	*200	200	200	200							1000	推 薦 A O 外 国 人 追加合格 欠員補充
個別学力検査						200		200					400	
計	200	*200	*200	200	200	400		200					1400	
センター試験	200	*200(注2)		200	100	200							900	推 薦 A O 外 国 人 追加合格 欠員補充
個別学力検査	*200			*200		200							400	
計	*400	*200(注2)		*400	100	400							1300	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	推 薦 A O 外 国 人 追加合格 欠員補充
個別学力検査	*200			*200		200							400	
計	*400	*100	*100	*400	200	400							1300	
センター試験	200	*200	*200	200	200	200							1000	推 薦 A O 外 国 人 追加合格 欠員補充
個別学力検査						200		200					400	
計	200	*200	*200	200	200	400		200					1400	

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。

(注1) 2教科3科目又は3教科3科目選択し、配点は各科目100点の合計300点とします。

(注2) 1教科2科目又は2教科2科目選択し、配点は各科目100点の合計200点とします。

平成28年度佐賀大学入学者選抜（一般入試）における実施教科・科目等

学部・学科等名 及び入学定員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	
芸術地域 デザイン 学部 芸術地域 デザイン 学科 (設置 予定※) 110人 前期 58 後期 27 その他25	芸術表現コース 55人 前期 33 後期 12 その他 10	前期	〔3科目型〕	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 } から1 数I,数I・数A,数II,数II・数B,簿・会,情 } 物,化,生,地学,基礎を付した科目 } 英,独,仏,中,韓から1 } (3教科3科目)	その他	実技検査(描写表現)(注1)	
		2月 25日	〔4科目型〕	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 } から2 数I,数I・数A, } から1又は2 数II,数II・数B,簿・会,情 } 物,化,生,地学, } 基礎を付した科目 } 英,独,仏,中,韓から1 } (3教科4科目又は4教科4科目)	その他	実技検査(発想表現)(注1)	
		後期 3月 12日	〔3科目型〕	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 } から1 数I,数I・数A,数II,数II・数B,簿・会,情 } 物,化,生,地学,基礎を付した科目 } 英,独,仏,中,韓から1 } (3教科3科目)	その他	実技検査(描写表現) } から1 実技検査(発想表現) }	
	地域デザインコース 55人 前期 25 後期 15 その他 15	前期	〔5科目型〕	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } 数I,数I・数A,数II,数II・数B,簿・会,情から1 } 物,化,生,地学,基礎を付した科目から1 } 英,独,仏,中,韓から1 } (5教科5科目)	その他	総合問題(注2)	
		後期	〔4科目型〕	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, } から1 現社,倫,政経,倫・政経 } から1 数I,数I・数A,数II,数II・数B,簿・会,情 } 物,化,生,地学,基礎を付した科目 } 英,独,仏,中,韓から1 } (4教科4科目)	外 その他	コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II 問題解決・提案力テスト(注3)	

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、一般入試学生募集要項で必ず確認してください。

【個別学力検査等】欄

(注1) 実技検査の内容については、49ページに記載しています。

(注2) 総合問題の内容については、48ページに記載しています。

(注3) 問題解決・提案力テストの内容については、48ページに記載しています。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等														特別の入試方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	面接	調査書等	その他	配点合計	
センター試験	200	*100	*100	*100	*100	200							500	推薦 A O 外国人 追加合格 欠員補充
個別学力検査									500				500	
計	200	*100	*100	*100	*100	200			500				1000	
センター試験	200	*200 (注)				200							600	
個別学力検査									400				400	
計	200	*200 (注)				200			400				1000	
センター試験	200	*100	*100	*100	*100	200							500	
個別学力検査									300				300	
計	200	*100	*100	*100	*100	200			300				800	
センター試験	200	*100	*100	100	100	200							700	A O 外国人 追加合格 欠員補充
個別学力検査							400						400	
計	200	*100	*100	100	100	200	400						1100	
センター試験	200	*100	*100	*100		200							600	
個別学力検査						100						200	300	
計	200	*100	*100	*100		300						200	900	

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は選択教科を表しています。

(注) 1教科2科目又は2教科2科目を選択し、配点は各科目100点の合計200点とします。なお、数学または理科から少なくとも1教科の選択を必須とします。

平成28年度 佐賀大学入学者選抜（一般入試）における実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	
経済学部 〔3.7〕 260人 前期 135 後期 65 その他60	経済学科 110人 前期 70 後期 20 その他 20	前期 2月 25日	国 地歴・ 公民 数 外	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 数I,数I・数Aから1 数II,数II・数B,簿・会,情から1 英,独,仏,中,韓から1 }から1 〔4教科5科目〕	外	コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II	
	経営学科 80人 前期 30 後期 20 その他 30	後期 3月 12日	国 地歴・ 公民 理 外	国【必須】 数I,数I・数Aから1 数II,数II・数B,簿・会,情から1 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 物,化,生,地学, 基礎を付した科目 英,独,仏,中,韓から1 }から1 〔4教科5科目〕	その他	小論文	
	経済法学科 70人 前期 35 後期 25 その他 10						
医学部 〔5.4〕 166人 前期 85 後期 15 その他66	医学科 106人 前期 50 後期 10 その他 46	前期 2月 25日・ 26日	国 地歴・ 公民 数 理 外	国【必須】 世B,日B,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B,簿・会,情から1 物【必須】 化【必須】 英【必須】 }から1 〔5教科7科目〕	数 理 外 その他	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物,化基・化 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II 面接	約5倍※
		後期 3月 12日・ 13日	国 地歴・ 公民 数 理 外	国【必須】 世B,日B,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B,簿・会,情から1 物,化,生から2 英【必須】 }から1 〔5教科7科目〕	その他	面接	約10倍※
	看護学科 60人 前期 35 後期 5 その他 20	前期 2月 25日・ 26日	国 地歴・ 公民 数 理 外	国【必須】 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B, 現社,倫,政経,倫・政経 数I・数A,数II,数II・数B,簿・会,情から1 物,化,生から2 英【必須】 }から1 〔5教科6科目〕	その他	小論文 面接	
		後期 3月 12日・ 13日			その他	面接	

※2段階選抜は、大学入試センター試験の成績及び調査書の審査による選抜を行い、前期日程にあつてはその合格者に対して個別学力検査等を実施し、後期日程にあつてはその合格者に対して調査書の追加として自己推薦書を提出させ、個別学力検査等を実施します。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等														特別の入試方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	面接	調査書	その他	配点計	
センター試験	200	*100	*100	200		200							700	推薦外国人追加合格 欠員補充
個別学力検査						100							100	
計	200	*100	*100	200		300							800	
センター試験	200	*100	*100	200	*100	200							700	推薦女子 佐賀県推薦外国人追加合格 欠員補充
個別学力検査								100					100	
計	200	*100	*100	200	*100	200		100					800	
センター試験	140	*70	*70	140	140	140							630	推薦女子 佐賀県推薦外国人追加合格 欠員補充
個別学力検査				80	80	80				☆60	100		400	
計	140	*70	*70	220	220	220				60	100		1030	
センター試験	140	*70	*70	140	140	140							630	推薦社会人追加合格 欠員補充
個別学力検査										☆180	100		280	
計	140	*70	*70	140	140	140				180	100		910	
センター試験	140	*70	*70	100	200	140							650	推薦社会人追加合格 欠員補充
個別学力検査								100		☆60	100		260	
計	140	*70	*70	100	200	140		100		60	100		910	
センター試験	140	*70	*70	100	140	140							590	推薦社会人追加合格 欠員補充
個別学力検査										☆180	100		280	
計	140	*70	*70	100	140	140				180	100		870	

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。

配点に☆印を付してある面接は、評価が低い場合は不合格とすることがあります。

平成28年度佐賀大学入学者選抜（一般入試）における実施教科・科目等

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	
理工学部 〔5.8〕 490人 前期 342 後期 94 その他54	数理学科 前期 30人 後期 24人 その他 若干	前期 2月25日	国 地歴・ 公民 数	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化から1 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II	
		後期 3月12日	理 外	数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数	数I・数II・数III・数A・数B	
	物理科学科 前期 40人 後期 32人 その他 若干	前期 2月25日	国 地歴・ 公民 数	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II	
		後期 3月12日	理 外	数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	理	物基・物	
	知能情報 システム学科 前期 60人 後期 45人 その他 10人 その他 5人	前期 2月25日	国 地歴・ 公民 数	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化から1 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II	
		後期 3月12日	理 外	数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数 理	数I・数II・数III・数A・数B } から1 物基・物 } (注)	
機能物質化学科 前期 90人 後期 62人 その他 16人 その他 12人	前期 2月25日	国 地歴・ 公民 数	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化から1 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II		
	後期 3月12日	理 外	数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	理	化基・化		
機械システム 工 学 科 前期 90人 後期 58人 その他 17人 その他 15人	前期 2月25日	国 地歴・ 公民 数	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II		
	後期 3月12日	国 地歴・ 公民 数	数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数	数I・数II・数III・数A・数B		

【個別学力検査等】欄

(注) 数学及び理科の2教科を受験した場合は、高得点の教科を採用します。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等														特別の入試方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	面接	調査書等	その他	配点計	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	帰国子女 外国人 追加合格
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査				400									400	
計	100	*50	*50	550	150	150							1000	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	帰国子女 外国人 追加合格
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査					400								400	
計	100	*50	*50	150	550	150							1000	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	推薦 帰国子女 外国人 追加合格
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査				*400	*400								400	
計	100	*50	*50	*550	*550	150							1000	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	推薦 帰国子女 外国人 追加合格
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査					400								400	
計	100	*50	*50	150	550	150							1000	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	推薦 帰国子女 外国人 追加合格
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査				400									400	
計	100	*50	*50	550	150	150							1000	

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。

平成28年度佐賀大学入学者選抜（一般入試）における実施教科・科目等

学部・学科等名及び入学定員等 〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	
理工学部 電気電子工学科 90人 前期 60 後期 22 その他 8 都市工学科 90人 前期 61 後期 15 その他 14	前期 2月25日	国 地歴・公民 数 理 外	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化から1 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II		
			後期 3月12日				国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 物【必須】 化, 生, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕
	前期 2月25日	国 地歴・公民 数 理 外	国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物 コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II		
			後期 3月12日				国【必須】 世B, 日B, 地理B, } から1 倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 物【必須】 化, 生, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕
	農学部 〔4.5〕 145人 前期 85 後期 30 その他 30	前期 2月25日	国 地歴・公民 数 理 外	国【必須】 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B, } から1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1 物, 化, 生, 地学, } から2 基礎を付した科目 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 外	数I・数II・数A・数B コ英I・コ英II・コ英III・英表I・英表II	
				後期 3月12日			
生命機能科学科 40人 前期 30 後期 5 その他 5				〔5教科7科目〕			

【個別学力検査等】欄

(注) 数学及び理科の2教科を受験した場合は、高得点の教科を採用します。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等														特別の入 試方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技	面接	調査 書等	その他	配点 合計	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	推 薦 婦国子女 外 国 人
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	追加合格
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査				*400	*400								400	
計	100	*50	*50	*550	*550	150							1000	
センター試験	200	*100	*100	200	200	200							900	推 薦 婦国子女 外 国 人
個別学力検査				300	200	100							600	
計	200	*100	*100	500	400	300							1500	追加合格
センター試験	100	*50	*50	150	150	150							600	欠員補充
個別学力検査					400								400	
計	100	*50	*50	150	550	150							1000	
センター試験	150	*50	*50	100	200	100							600	推 薦 婦国子女 外 国 人
個別学力検査				200		200							400	
計	150	*50	*50	300	200	300							1000	追加合格
センター試験	100	*50	*50	100	200	100							550	欠員補充
個別学力検査				200									200	
計	100	*50	*50	300	200	100							750	

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。

平成28年度佐賀大学入学者選抜における旧教育課程履修者に対する経過措置について

平成28年度佐賀大学入学者選抜における旧教育課程履修者（「2. 新・旧教育課程履修者について」参照）に対する経過措置については、以下のとおり取り扱います。

1. 大学入試センター試験〔数学〕における旧教育課程履修者に対する経過措置

旧教育課程履修者は、新教育課程による出題科目・科目選択の方法に加え、「工業数理基礎」を選択解答することができます。

なお、医学部、理工学部及び農学部については、高等学校又は中等教育学校において「工業数理基礎」を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込）者に限り「工業数理基礎」を選択解答することができます。

2. 新・旧教育課程履修者について

新教育課程履修者	① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に平成25年4月に入学し、平成28年3月卒業見込みの者 ② 中等教育学校の後期課程に平成25年4月に進級し、平成28年3月卒業見込みの者
旧教育課程履修者	上記以外の者 * 高等学校等卒業者、高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者、大学入学資格検定合格者、高等専門学校第3学年修了者又は修了見込者、外国の学校等修了者又は修了見込者、在外教育施設修了者又は修了見込者、及び高等学校等を平成28年3月卒業見込みであるが、入学は平成25年3月以前の者など、上記に該当しない者

※「新教育課程」とは、平成25年4月1日から適用された高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）に基づく教育課程及び平成21年3月9日文部科学省告示第38号の特例により定められた教育課程をいい、「旧教育課程」とは、従前の高等学校学習指導要領に基づく教育課程をいう。

【教育学部】（改組予定※）

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	学校教育課程 幼小連携教育コース 特別支援教育専攻
募集人員	5人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 高等学校を平成28年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (3) 高等学校の調査書における評定平均値が3.8以上の者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者
基礎学力試験	外国語（コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ）
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査書・推薦書の評価基準 学業成績、修学状況、部活動、社会活動等をみます。 ● 小論文の評価基準 出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。 ● 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。 ● 面接の評価基準 勉学意欲、特別支援教育への興味・関心等をみます。 ● 合否判定基準 書類（調査書及び推薦書）、小論文、基礎学力試験、面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	平成27年12月11日(金)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項で必ず確認してください。

【教育学部】（改組予定※）

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ（佐賀県枠））

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻
募集人員	5人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 佐賀県内の高等学校を平成28年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲、資質、適性等を有する者で、合格した場合は入学することを確約できる者 (3) 高等学校の調査書における評定平均値が4.3以上の者
基礎学力試験	<ul style="list-style-type: none"> ●外国語（コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ） ●数学（数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B） 数Ⅰ，数Ⅱ，数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●調査書等の評価基準 学業成績が優秀かどうか、教職を目指す強い意志を持ち、教員になるための基礎的な資質、能力を兼ね備えているかを、調査書、推薦書、志望理由書等により評価します。 ●小論文の評価基準 資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 ●面接の評価基準 志望動機、学習意欲、積極性、コミュニケーション能力について評価し、将来小学校教員になるための適性を備えているかを判断します。 ●基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。 ●合否判定基準 基礎学力試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書、志願者の志望理由書を総合して、合格者を決定します。 佐賀県教育委員会による第1次選考（書類審査）を行い、その選考結果は、平成27年12月3日(木)頃発送します。 第2次選考については、第1次選考合格者に対して小論文、面接及び基礎学力試験を行い、各成績評価を総合して合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	平成27年12月11日(金)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試Ⅰ（佐賀県枠）学生募集要項で必ず確認してください。

【芸術地域デザイン学部】（設置予定※）

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 美術・工芸分野 有田セラミック分野
募集人員	4人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現の分野における優れた経験・知識・技術・実績及び熱意があると評価される者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
実技検査	美術・工芸分野 ①着彩（B3の水彩紙に静物着彩） ②粘土による造形表現（①、②のうちいずれかを選択） 有田セラミック分野 ①着彩（B3の水彩紙に静物着彩） ②粘土による造形表現 ③ろくろ造形表現（①、②、③のうちいずれかを選択）
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●面接の採点・評価基準 グローバルな社会問題に関心があり、芸術表現を通じて地域社会を機能的に繋げていける発想力、コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。加えて、芸術表現に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し、芸術表現に関する意欲の高さを評価します。学習の目標が明確で、それが芸術表現コースの内容に合致する者に高い評価を与えます。 ●実技検査の採点・評価基準 自らの手による表現力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 美術・工芸分野及び有田セラミック分野の着彩では、基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。粘土による造形表現またはろくろ造形表現では、基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。 ●調査書、推薦書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、推薦書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4で5ページのファイルにまとめて提出してください。 ●合否判定基準 書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）、面接及び実技検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	平成27年12月12日(土)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	<ol style="list-style-type: none"> (1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。 (3) 入学志願者が募集人員の約10倍を超えた場合には、書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）により、第1次選考を行う場合があります。 (4) 2年次から受験時に選択した分野に所属します。 (5) 平成28年度入試において、推薦入試とAO入試は同時期に行われるため、併願はできません。

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項で必ず確認してください。

【経済学部（商業系の科・情報系の科・総合学科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	経済学科 経営学科
募集人員	経済学科 10人 経営学科 20人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 高等学校で成績が最終学年次（最終学年次において外国に留学した者については、その前学年次）に上位10%以内の者で、人物、学力について優れる者 ただし、コース毎等のみの順位による推薦はできません。 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者（平成27年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。） (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 資料を提示の上、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。 ● 面接の採点・評価基準 高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。 ● 調査書等の採点・評価基準 学習状況、資格取得状況、クラブ活動等をみます。 ● 可否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の商業系の科（商業高等学校の全科を含みます。）情報系の科及び総合学科 （注）ただし、商業系の専門教育に関する科目（「産業社会と人間」及び情報処理に関する基礎科目を含みます。）を20単位以上修得（見込みを含みます。）していることが必要です。 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。

【経済学部（普通科又はこれに準ずると本学部が認める科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	経済学科 経営学科 経済法学科
募集人員	経済学科 10人 経営学科 10人 経済法学科 10人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ全体の評定平均値が4.0以上の者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者に限ります。 ① 成績優秀な者（外国語については評定平均値4.3以上とします。） ② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者（ただし、この実績については証明する資料を添付してください。） ③ 個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し、推薦に価すると思われる者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者（平成27年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。） (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文の採点・評価基準 資料を提示の上、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。 ●面接の採点・評価基準 高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。 ●調査書等の採点・評価基準 学習状況、クラブ活動等をみます。 ●合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。

【医学部】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅱ）

（大学入試センター試験を課す）

学科・課程等名	医学科
募集人員	【一般枠】 20人
出願要件	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者(④に該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。)</p> <p>(2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者</p> <p>(3) 高等学校を平成27年度中に卒業を認められた者又は平成28年3月卒業見込みの者</p> <p>(4) 合格した場合は、確実に入学できる者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 ●面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。 ●調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に扱います。

評価基準等	●大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等			
	利用教科	科 目 名 等	配点	配点 合計
	国	国【必須】	140	630
	地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1	*70	
	数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1	140	
	理	物【必須】 化【必須】	140	
外	英【必須】	140		
	<p>【配点】の欄</p> <p>*印を付してある教科は選択教科を表します。</p> <p>旧教育課程履修者は、60頁を参照してください。</p> <p>上記の受験を要する教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。</p> <p>●合否判定基準</p> <p>大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。</p> <p>なお、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p> <p>入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を行うことがあります。</p>			
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで			
入試期日	平成27年11月28日(土)			
合格者発表日	平成28年2月10日(水)			
そ の 他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科</p> <p>(2) 各高等学校から推薦できる人員は、2人以内とします。</p>			

【医学部】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅱ）

（大学入試センター試験を課す）

学科・課程等名	医学科
募集人員	【佐賀県枠】 23人
出願要件	<p>次の各号のすべてに該当する者で，高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>(1) 高等学校における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評がA段階に属し，心身ともに健全である者(④に該当する者については，調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示し，「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。)</p> <p>(2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち，将来，佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>(3) 高等学校を平成26年4月以降に卒業を認められた者又は平成28年3月卒業見込みの者で，次のいずれかに該当する者</p> <p>① 佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>② 佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち，佐賀県内の小学校，中学校のいずれかを卒業し，保護者※が佐賀県内に平成27年10月1日現在で3年以上在住しているもの（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認します。）</p> <p>※保護者とは，子女に対して親権を行う者，親権を行う者のないときは，未成年後見人をいう。（本学部における保護者の定義（学校教育法から引用））</p> <p>(4) 大学卒業後は，佐賀県内の基幹型臨床研修病院において，初期臨床研修（2年）を受けることを確約できる者</p> <p>(5) 合格した場合は，確実に入学できる者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ，論述式の試験を行うことにより，病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性，及び種々の問題を科学的・論理的に思考し，それを解決する能力を評価します。 ●面接の採点・評価基準 医学部志望の動機，学習意欲，積極性，生命や医療に対する倫理観，チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し，将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。 ●調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく，心身ともに健全で規則的な生活習慣を保ち，学習意欲，積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に扱います。

評価基準等	●大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等			
	利用教科	科目名等	配点	配点合計
	国	国【必須】	140	630
	地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1	*70	
	数	数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情から1	140	
	理	物【必須】 化【必須】	140	
外	英【必須】	140		
【配点】の欄	<p>*印を付してある教科は選択教科を表します。</p> <p>旧教育課程履修者は、60頁を参照してください。</p> <p>上記の受験を要する教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。</p>			
●合否判定基準	<p>大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。</p> <p>なお、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p> <p>入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を行うことがあります。</p>			
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで			
入試期日	平成27年11月28日(土)			
合格者発表日	平成28年2月10日(水)			
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科</p> <p>(2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。</p> <p>(3) 推薦入試【佐賀県枠】の合格者（入学手続者）は、佐賀県への申請により、卒業後佐賀県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「佐賀県医師修学資金」の貸与を受けることができます。（5人以内）</p>			

【医学部】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅱ）

（大学入試センター試験を課す）

学科・課程等名	医学科
募集人員	【長崎県枠】 1人
出願要件	<p>次の各号の全てに該当する者で、高等学校長が責任を持って推薦できる者</p> <p>(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者(④)に該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。</p> <p>(2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者</p> <p>(3) 高等学校を平成26年4月以降に卒業を認められた者又は平成28年3月卒業見込みの者で、次のいずれかに該当する者</p> <p>① 長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者</p> <p>② 長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(4) 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内医療機関等で診療に従事することを確約できる者</p> <p>(5) 合格した場合は、確実に入学できる者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 ●面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。 ●調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に扱います。

評価基準等	●大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等			
	利用教科	科目名等	配点	配点合計
	国	国【必須】	140	630
	地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1	*70	
	数	数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情から1	140	
	理	物【必須】 化【必須】	140	
外	英【必須】	140		
	<p>【配点】の欄</p> <p>*印を付してある教科は選択教科を表します。</p> <p>旧教育課程履修者は、60頁を参照してください。</p> <p>上記の受験を要する教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。</p> <p>●合否判定基準</p> <p>大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。</p> <p>なお、大学入試センター試験の成績が本学の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p> <p>入学志願者が募集人員の約10倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を行うことがあります。</p>			
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで			
入試期日	平成27年11月28日(土)			
合格者発表日	平成28年2月10日(水)			
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科</p> <p>(2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。</p> <p>(3) 長崎県医学修学資金については、長崎県福祉保健部医療人材対策室（TEL. 095-895-2421）まで問い合わせてください。</p>			

【医学部】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	看護学科
募集人員	20人（うち、2人以内を専門系の科及び総合学科から募集します。）
出願要件	<p>次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、心身ともに健全である者(④に該当する者については、調査書の「4. 学習成績概評」欄に④と標示し、「9. 備考」欄にその理由を必ず明示してください。)</p> <p>(2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者</p> <p>(3) 高等学校を平成28年3月に卒業見込みの者（平成27年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。）</p> <p>(4) 合格した場合は、確実に入学できる者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 ● 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。 ● 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 ● 合否判定基準 小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月28日(土)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科 (注) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目（「産業社会と人間」を含みます。）を20単位以上修得（見込みを含みます。）している者を対象とします。</p> <p>(2) 各高等学校から推薦できる人員は、2人以内とします。</p>

【理工学部（情報系の科・総合学科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	知能情報システム学科
募集人員	2人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。 ●面接の採点・評価基準 志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。 ●調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や、情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 ●合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の情報系の科及び総合学科 （注）高等学校の総合学科については、学科に関係する専門教育に関する科目（「産業社会と人間」を含みます。）を20単位以上修得（見込みを含みます。）していること。 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。

【理工学部（工業系の科・総合学科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科
募集人員	機能物質化学科 2人 機械システム工学科 5人 電気電子工学科 4人 都市工学科 4人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。 ● 面接の採点・評価基準 志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。 ● 調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 ● 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 機能物質化学科：高等学校の工業系の科及び総合学科 （注）工業系の科については全科を対象とします。 機械システム工学科：高等学校の機械系の科及び総合学科 電気電子工学科：高等学校の電気・電子・情報系の科及び総合学科 都市工学科：高等学校の土木・建築系の科及び総合学科 （注）高等学校の総合学科については、それぞれの学科に関係する専門教育に関する科目（「産業社会と人間」を含みます。）を20単位以上修得（見込みを含みます。）していること。</p> <p>(2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。</p>

【理工学部（普通科・理数科・総合学科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	都市工学科
募集人員	10人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。 ● 面接の採点・評価基準 志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。 ● 調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 ● 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の普通科・理数科及び総合学科 （注）高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目（「産業社会と人間」を含みます。）の修得単位が20単位未満の者（見込みを含みます。）に限ります。 (2) 上記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。

【理工学部】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅱ）

（大学入試センター試験を課す）

学科・課程等名	知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科														
募集人員	知能情報システム学科 3人 機能物質化学科 10人 機械システム工学科 10人 電気電子工学科 4人														
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者及び平成27年3月に卒業した者 (3) 合格した場合は確実に入学できる者 (4) 以下に指定している科目を履修している者														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">学科</th> <th style="width: 20%;">教科</th> <th style="width: 40%;">科目名等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知能情報システム学科</td> <td style="text-align: center;">数理</td> <td style="text-align: center;">数Ⅲ 物理</td> </tr> <tr> <td>機能物質化学科</td> <td style="text-align: center;">数理</td> <td style="text-align: center;">数Ⅲ 化学</td> </tr> <tr> <td>機械システム工学科 電気電子工学科</td> <td style="text-align: center;">数</td> <td style="text-align: center;">数Ⅲ</td> </tr> </tbody> </table>			学科	教科	科目名等	知能情報システム学科	数理	数Ⅲ 物理	機能物質化学科	数理	数Ⅲ 化学	機械システム工学科 電気電子工学科	数	数Ⅲ
学科	教科	科目名等													
知能情報システム学科	数理	数Ⅲ 物理													
機能物質化学科	数理	数Ⅲ 化学													
機械システム工学科 電気電子工学科	数	数Ⅲ													
評価基準等	● 調査書及び推薦書の評価基準 (1) 調査書 高校での履修状況、修学状況(出席等)、生活態度等について総合的に評価します。 (2) 推薦書 「推薦の理由」が理工学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）における「求める学生像」を踏まえた内容になっているかを確認します。														

学科名	教科	科目名等	配点	合計																																																																									
					教科	科目名等	配点	合計																																																																					
知能情報システム学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物, 化, 生, 地学から 2	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
機能物質化学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
電気電子工学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
機械システム工学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
評価基準等	<p>●大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科名</th> <th>教科</th> <th>科目名等</th> <th>配点</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">知能情報システム学科</td> <td>国</td> <td>国【必須】</td> <td>100</td> <td rowspan="5">1000</td> </tr> <tr> <td>地歴・公民</td> <td>世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>物, 化, 生, 地学から 2</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英, 独, 仏, 中, 韓から 1</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">機能物質化学科</td> <td>国</td> <td>国【必須】</td> <td>100</td> <td rowspan="5">1000</td> </tr> <tr> <td>地歴・公民</td> <td>世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>物【必須】 化, 生, 地学から 1</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英, 独, 仏, 中, 韓から 1</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">電気電子工学科</td> <td>国</td> <td>国【必須】</td> <td>100</td> <td rowspan="5">1000</td> </tr> <tr> <td>地歴・公民</td> <td>世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>物【必須】 化, 生, 地学から 1</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英, 独, 仏, 中, 韓から 1</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">機械システム工学科</td> <td>国</td> <td>国【必須】</td> <td>100</td> <td rowspan="5">1000</td> </tr> <tr> <td>地歴・公民</td> <td>世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>物【必須】 化, 生, 地学から 1</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英, 独, 仏, 中, 韓から 1</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table> <p>旧教育課程履修者は、60頁を参照してください。 上記の受験を要する教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。</p> <p>●合否判定基準 大学入試センター試験の成績、調査書及び推薦書を総合して合格者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が本学の定める基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。</p>				学科名	教科	科目名等	配点	合計	知能情報システム学科	国	国【必須】	100	1000	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300	理	物, 化, 生, 地学から 2	250	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250	機能物質化学科	国	国【必須】	100	1000	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250	電気電子工学科	国	国【必須】	100	1000	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250	機械システム工学科	国	国【必須】	100	1000	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250
学科名	教科	科目名等	配点	合計																																																																									
知能情報システム学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物, 化, 生, 地学から 2	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
機能物質化学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
電気電子工学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
機械システム工学科	国	国【必須】	100	1000																																																																									
	地歴・公民	世 B, 日 B, 地理 B, 倫・政経 } から 1	100																																																																										
	数	数 I・数 A【必須】 数 II・数 B, 簿・会, 情から 1	300																																																																										
	理	物【必須】 化, 生, 地学から 1	250																																																																										
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から 1	250																																																																										
出願期間	平成28年1月18日(月)から平成28年1月25日(月)まで																																																																												
合格者発表日	平成28年2月10日(水)																																																																												
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 高等学校の全科</p> <p>(2) 前記「出願要件」を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。</p>																																																																												

【農学部（専門系の科・総合学科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科
募集人員	応用生物科学科 3人 生物環境科学科 3人 生命機能科学科 1人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 学習成績概評が㊸として推薦できる者 これに該当する者は、調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示し、「9. 備考」欄にその理由を明示してください。 (3) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。 ● 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。 ● 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動をみます。 ● 合否判定基準 書類選考（調査書、作文等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 各学科とも高等学校の専門系の科及び総合学科 (注) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目（「産業社会と人間」を含みます。）を20単位以上修得（見込みを含みます。）していること。</p> <p>(2) 各高等学校の全日制・定時制及び通信制の各課程から推薦できる人員は、応用生物科学科及び生物環境科学科の各学科に対して2人以内、生命機能科学科に対して1人とします。</p>

【農学部（専門系の科を除く全科推薦）】

平成28年度 特別入試（推薦入試Ⅰ）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科
募集人員	応用生物科学科 7人 生物環境科学科 12人 生命機能科学科 4人
出願要件	次の各号のすべてに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 高等学校を平成28年3月卒業見込みの者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。 ● 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について口頭試問します。 ● 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動をみます。 ● 合否判定基準 書類選考（調査書、作文等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	<p>(1) 対象となる高等学校の科 各学科とも高等学校の全科（ただし、専門系の科を除きます。） （注）高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目（「産業社会と人間」を含みます。）の修得単位が20単位未満の者（見込みを含みます。）に限ります。</p> <p>(2) 各高等学校の全日制・定時制及び通信制の各課程から推薦できる人員は、各学科に対して2人以内とします。</p>

■推薦入試Ⅰ・推薦入試Ⅱの実技検査等の配点等

学部, 学科・課程等名			区分		書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	実技検査	その他	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)
			書類審査	小論文							
教育学部 (改組予定)	学校教育課程	幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	100	100	100	/	/	100 (注1)	/	/	400
		小中連携教育コース 初等教育主免専攻 佐賀県枠	合, 否	100	150	/	/	200 (注2)	/	/	450
芸術地域デザイン学部 芸術表現コース			300	/	300 (注3)	400	/	/	/	/	1000
経済学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	40	2段階評価 100	2段階評価 (合, 否) (注3)	/	/	/	/	/	2段階評価 (合, 否)
	経営学科										
	経済学科	普通科又はこれに準ずると 本学部が認める 科推薦									
	経営学科										
経済法学科											
医学部	医 学 科		380	120	120	/	/	630 (注4)	/	/	1250
	看 護 学 科		150	200	150	/	/	/	/	/	500
理工学部 (推薦入試Ⅰ)	知能情報システム学科	2段階評価	3段階評価 (A, B, C)	3段階評価 (A, B, C) (注3)	/	/	/	/	/	/	総合評価 (良, 可, 不可)
	機能物質化学科										
	機械システム工学科										
	電気電子工学科										
	都市工学科										
理工学部 (推薦入試Ⅱ)	知能情報システム学科	2段階評価 (合, 否)	/	/	/	/	/	/	1000 (注4)	/	総合評価 (合, 否)
	機能物質化学科										
	機械システム工学科										
	電気電子工学科										
農学部	応用生物科学科	100	200	200 (注3)	/	/	/	/	/	/	500
	生物環境科学科										
	生命機能科学科										

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、推薦入試学生募集要項及び推薦入試Ⅰ（佐賀県枠）学生募集要項で必ず確認してください。

(注1) 基礎学力試験（外国語）を課します。

(注2) 基礎学力試験（外国語、数学）を課します。

(注3) 面接は、口頭試問を含みます。

(注4) 大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等については、医学部は66ページから71ページ、理工学部は76ページから77ページを参照してください。

【医学部】

平成28年度 特別入試（帰国子女）

学科・課程等名	医学科
募集人員	若干人
出願要件	<p>日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者とします。</p> <p>ただし、平成26年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除きます。）した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。</p> <p>(1) 学校教育における12年の課程を平成26年4月1日から平成28年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。</p> <p>(2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成26年又は平成27年に授与された者で、平成28年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成26年又は平成27年に授与された者で、平成28年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成26年又は平成27年に授与された者で、平成28年3月31日までに18歳に達する者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 学力検査の教科名・科目名等 数学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B（注） 理科 物基・物、化基・化 外国語 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ （注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。 ● 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。 ● 合否判定基準 学力検査、面接、提出書類を総合して最終的な合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成28年2月25日(木)・2月26日(金)
合格者発表日	平成28年3月6日(日)
その他	大学入試センター試験を免除します。

【理工学部・農学部】

平成28年度 特別入試（帰国子女）

実施学部, 学科・課程等名	理工学部 数理科学科, 物理科学科, 知能情報システム学科, 機能物質化学科, 機械システム工学科, 電気電子工学科, 都市工学科 農学部 応用生物科学科, 生物環境科学科, 生命機能科学科
募集人員	各学科 若干人
出願要件	<p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって, 外国の学校教育を受けた者のうち, 次のいずれかに該当する者とします。</p> <p>(1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含みます。）を外国又は日本において, 平成26年4月1日から平成28年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で, 卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内, 外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし, 外国に設置されたものであっても, 日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は, 「2年以上」という期間には算入しません。</p> <p>(2) 外国において, スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成26年又は平成27年に授与された者で, 平成28年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) ドイツ連邦共和国の各州において, 大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成26年又は平成27年に授与された者で, 平成28年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(4) フランス共和国において, 大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成26年又は平成27年に授与された者で, 平成28年3月31日までに18歳に達する者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて, 解釈力, 論理的思考力, 表現力及び記述力等をみます。 ● 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識, 自己の目標, 志望学科に対する意欲を問います。 ● 合否判定基準 書類（成績証明書等）, 小論文及び面接等の結果を資料として判定の上, 合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月27日(金)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	大学入試センター試験を免除します。

【医学部】

平成28年度 特別入試（社会人）

学科・課程等名	看護学科
募集人員	若干人
出願要件	<p>平成28年4月1日現在、年齢が満21歳以上であり、3年以上社会人として経験を有し、看護学を修め、卒業後看護の分野で就業する意志のある者で、次のいずれかに該当するものとします。</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」と言います。）を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p> <p>注）社会人の期間には、学校等（予備校、大学、専修学校高等課程・専門課程）の在学期間は含みません。</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 ●面接の採点・評価基準 これまでの社会人としての経験を生かした、看護学科志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通じて評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。 なお、志願理由書及び調査書は面接にあたって参考にします。 ●合否判定基準 小論文及び面接の結果を総合して、合格者を決定します。 ●小論文及び面接の配点 小論文 200点、面接 60点（総得点 260点）
出願期間	平成27年11月2日(月)から平成27年11月9日(月)まで
入試期日	平成27年11月28日(土)
合格者発表日	平成27年12月7日(月)
その他	大学入試センター試験を免除します。

【医学部】

平成28年度 特別入試（佐賀県推薦入学）

（大学入試センター試験を課す）

学科・課程等名	医学科
募集人員	2人
出願要件	<p>次の各号のすべてに該当する者で、佐賀県が責任をもって推薦できる者（佐賀県による第一次選考合格者）</p> <p>(1) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内での医療活動に従事し、県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者</p> <p>(2) 高等学校を平成25年4月以降に卒業を認められた者又は平成28年3月に卒業見込みの者、若しくは、高等専門学校を平成25年4月以降に修了した者又は平成28年3月修了見込みの者で、いずれも高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である者</p> <p>※高等学校には、中等教育学校、特別支援学校の高等部を含む。</p> <p>(3) 合格した場合は、確実に入学できる者</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性、及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 ● 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。また、将来、佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意思の有無も評価の基準とします。 ● 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。

（注）上記出願要件の（2）に記す「高等専門学校の修了」とは、「第3学年の修了」を示します。

評価基準等	●大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等													
	利用教科	科目名等	配点	配点合計										
	国	国【必須】	140	630										
	地歴・公民	世B, 日B, 地理B, 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1	*70											
	数	数I・数A【必須】 数II・数B, 簿・会, 情から1	140											
	理	物【必須】 化【必須】	140											
外	英【必須】	140												
<p>【配点】の欄 *印を付してある教科は選択教科を表します。 旧教育課程履修者は、60頁を参照してください。 上記の受験を要する教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。</p> <p>●配点</p> <table border="1"> <tr> <td>小論文</td> <td>面接</td> <td>大学入試センター試験</td> <td>調査書等</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>120</td> <td>140</td> <td>630</td> <td>360</td> <td>1250</td> </tr> </table> <p>●合否判定基準 佐賀県からの推薦理由書等, 小論文, 面接, 大学入試センター試験の成績を総合的に判断して, 合格者を決定します。 なお, 面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。</p>					小論文	面接	大学入試センター試験	調査書等	合計	120	140	630	360	1250
小論文	面接	大学入試センター試験	調査書等	合計										
120	140	630	360	1250										
出願期間	平成27年11月19日(木)から平成27年11月24日(火)まで (あらかじめ行われる佐賀県による第1次選考*に合格し, 佐賀県からの推薦を受けた上での出願になります。)													
入試期日	第2次選考日 平成27年11月28日(土)													
合格者発表日	平成28年2月10日(水)													
その他	(1) 出願者は佐賀県在住者だけでなく, 日本国内の居住者を対象とします。 (2) 佐賀県から推薦できる人員は6人程度とします。 ※佐賀県による第1次選考に関する募集要項等問い合わせ先 佐賀県健康福祉本部医務課地域医療体制整備室 〒840-8570 佐賀市城内1-1-59 電話 0952-25-7033													

【教育学部】（改組予定※）

平成28年度 特別入試（AO入試）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻
募集人員	10人
出願要件	<p>次の各号のすべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校若しくは中等教育学校を平成26年4月以降に卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者</p> <p>② 通常の課程による12年の学校教育を平成26年4月以降に修了した者及び平成28年3月修了見込みの者</p> <p>③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成26年4月以降にこれに該当する者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者</p> <p>(2) 英語、理数、音楽、体育、家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者</p> <p>(3) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校等の教員になることを強く志望する者</p> <p>(4) 合格した場合は、確実に入学できる者</p>
適性検査	<p>次の適性検査を行います。本専攻が定める基準以上の得点を適性ありと評価します。</p> <p>①英語分野：英語の筆記試験（総合問題、英作文、要約問題）を行います。</p> <p>②理数分野：算数・数学に関する与えられたテーマについて自ら課題を発見し、発見した課題の内容や解決方法を記述した上で、その内容に関する口頭発表と試問を行います。</p> <p>③音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュ（初見視唱、旋律聴音、和声聴音）の個別レッスン1回を行います。</p> <p>④体育分野：次の4種目について、基礎運動能力を検査します。 A 背筋力 B 反復横とび C ジャンプ力 D ソフトボール投げ</p> <p>⑤家庭分野：次の家庭科に関する課題について、検査をします。 ・食生活の内容（献立作成と実技検査）</p>

評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 ● 活動実績報告書の評価基準 志望領域に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績，外部の英語検定試験の成績，留学経験，大会・コンクール等の実績）を評価します。 ● 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより，文章理解力，資料の内容に関する知識，論理的な思考力，文章構成力，表現力を評価します。 ● 面接の評価基準 志望動機，専門領域に関する知識や理解，修学意欲，積極性，コミュニケーション能力等を評価し，将来小学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 ● 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 ● 合否判定基準 書類（調査書，志願理由書及び活動実績報告書），小論文，面接及び適性検査の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	音楽分野：平成27年12月11日(金)から平成27年12月12日(土)まで 音楽以外の分野：平成27年12月11日(金)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	入学志願者が多く，適性検査等を適切に行うことが困難な場合には，書類（調査書，志願理由書，活動実績報告書）により，第1次選考を行う場合があります。

※ 芸術地域デザイン学部は，平成28年4月に設置予定です。これに伴い，文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお，これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり，変更になることがあります。確定した内容は，AO入試学生募集要項で必ず確認してください。

【教育学部】（改組予定※）

平成28年度 特別入試（AO入試）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主免専攻
募集人員	8人
出願要件	<p>次の各号のすべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校若しくは中等教育学校を平成26年4月以降に卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者</p> <p>② 通常の課程による12年の学校教育を平成26年4月以降に修了した者及び平成28年3月修了見込みの者</p> <p>③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成26年4月以降にこれに該当する者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者</p> <p>(2) 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者</p> <p>(3) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校等の教員になることを強く志望する者</p> <p>(4) 合格した場合は、確実に入学できる者</p>
適性検査	<p>次の適性検査を行います。本専攻が定める基準以上の得点を適性ありと評価します。</p> <p>①英語分野：英語の筆記試験（総合問題、英作文、要約問題）を行います。</p> <p>②理数分野：これまでに行ってきた自然科学に関する研究テーマの発表を行います。</p> <p>③音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュ（初見視唱、旋律聴音、和声聴音）の個別レッスン1回を行います。</p> <p>④保健体育分野：次の【I群】及び【II群】から各2種目ずつ、計4種目を選択して行います。基礎運動能力並びに学校体育教材における運動技能を検査します。</p> <p style="padding-left: 2em;">【I群】 A 背筋力 B 反復横とび C ジャンプ力 D ソフトボール投げ</p> <p style="padding-left: 2em;">【II群】 E バasketボール F サッカー G バレーボール</p> <p>⑤家庭分野：次の家庭科に関する課題について、検査をします。</p> <p style="padding-left: 2em;">・食生活の内容（献立作成と実技検査）</p> <p>⑥技術分野：与えられた課題についてパソコンでスライドを作成し、それをを用いて口頭発表を行うことにより、プレゼンテーション能力を検査します。</p>

評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 ● 活動実績報告書の評価基準 志望領域に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績，外部の英語検定試験の成績，留学経験，大会・コンクール等の実績）を評価します。 ● 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより，文章理解力，資料の内容に関する知識，論理的な思考力，文章構成力，表現力を評価します。 ● 面接の評価基準 志望動機，専門領域に関する知識や理解，修学意欲，積極性，コミュニケーション能力等を評価し，将来中学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 ● 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 ● 合否判定基準 書類（調査書，志願理由書及び活動実績報告書），小論文，面接及び適性検査の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	音楽分野：平成27年12月11日(金)から平成27年12月12日(土)まで 音楽以外の分野：平成27年12月11日(金)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	入学志願者が多く，適性検査等を適切に行うことが困難な場合には，書類（調査書，志願理由書，活動実績報告書）により，第1次選考を行う場合があります。

※ 芸術地域デザイン学部は，平成28年4月に設置予定です。これに伴い，文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお，これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり，変更になることがあります。確定した内容は，AO入試学生募集要項で必ず確認してください。

【芸術地域デザイン学部】（設置予定※）

平成28年度 特別入試（AO入試）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 美術・工芸分野 有田セラミック分野
募集人員	6人
出願要件	<p>芸術表現コースでの勉学を強く希望し、合格した場合は、確実に入学できる者で、次の各号のいずれかに該当する者としてします。</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成28年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成28年3月修了見込みの者</p> <p>(3) 学校教育法施行規則150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成27年4月以降にこれに該当する者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者</p>
適性検査	<p>美術・工芸分野 模擬授業を受けてのドローイングなどの制作及びプレゼンテーション</p> <p>有田セラミック分野 模擬授業を受けての粘土を用いた制作及びプレゼンテーション</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 模擬授業における採点・評価基準 教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や分析力、行動力及び考察力を重視した多面的・総合的な採点、評価を行います。 ● プレゼンテーションの採点・評価基準 発想力、企画力、表現力を持ち、積極的に行動し、意欲的かつ継続的な芸術の研究や自主的な芸術活動を目指しているかを採点・評価基準とします。 ● 調査書、志願理由書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、志願理由書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4で5ページのファイルにまとめて提出してください。 ● 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）及び適性検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	平成27年12月11日(金)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	<p>(1) 入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合、書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）により、第1次選考を行う場合があります。</p> <p>(2) 2年次から受験時に選択した分野に所属します。</p> <p>(3) 平成28年度入試においては、推薦入試とAO入試は同時期に行われるため、併願はできません。</p>

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、AO入試学生募集要項で必ず確認してください。

【芸術地域デザイン学部】（設置予定※）

平成28年度 特別入試（AO入試）

（大学入試センター試験を課さない）

学科・課程等名	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース
募集人員	15人
出願要件	<p>地域デザインコースでの勉学を強く希望し、合格した場合は、確実に入学できる者で、次の各号のいずれかに該当する者とします。</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月修了見込の者 (3) 学校教育法施行規則150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者</p>
適性検査	<p>①小論文の内容についてのプレゼンテーション資料の作成 地域デザインに関わる資料（新聞記事、図表、統計資料、論説等）を分析・考察した小論文およびその説明のためのプレゼンテーション資料（B3用紙）を作成。</p> <p>②グループディスカッション（個別発表とグループ討論、試問） 小論文の内容について、各自が作成したプレゼンテーション資料を用いた発表（ひとり3分以内）。各自の個別発表を踏まえたグループ討論、試問。</p>
評価基準等	<ul style="list-style-type: none"> ●小論文とその内容についてのプレゼンテーション資料の採点基準 読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を総合的に評価します。 ●グループディスカッション（個別発表とグループ討論、試問）の採点・評価基準 個別発表、グループ討論及び試問を通じて、コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップ、主体性、積極性、論理性、修学意欲等を総合的に評価します。 ●調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 ●特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） 本コースのアドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動実績を評価します。 ●合否判定基準 書類（調査書、志願理由書、特色加点申請書〈申請者のみ〉）、小論文、プレゼンテーション資料、グループディスカッションの各成績評価を総合して、合格者を決定します。
出願期間	平成27年11月20日(金)から平成27年11月26日(木)まで
入試期日	平成27年12月11日(金)
合格者発表日	平成27年12月17日(木)
その他	<p>(1) 入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合には、書類（調査書、志願理由書、特色加点申請書〈申請者のみ〉）により、第1次選考を行う場合があります。</p> <p>(2) 平成28年度入試においては、推薦入試とAO入試は同時期に行われるため、併願はできません。</p>

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、AO入試学生募集要項で必ず確認してください。

■AO入試の配点等および特色加点制度

学部, 学科・課程等名			区分	書類審査 (調査書, 志願理由書等)	小論文	面接	適性検査	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色加点
教 育 学 部 (改組予定※)	学 校 教 育 課 程	小 中 連 携 教 育 コ ー ス	初等教育主免専攻	100	100	150 (注1)	200 (注2)	/	550	/
			中等教育主免専攻							
芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 部 (設置予定※)	芸 術 地 域 デ ザ イ ン 学 科		芸術表現コース	400	/	/	600 (注3)	/	1000	/
			地域デザインコース	2段階評価 合, 否	300	/	700 (注4)	/	1000	100

※ 芸術地域デザイン学部は、平成28年4月に設置予定です。これに伴い、文化教育学部の教育学部への改組も予定しています。なお、これらの計画は文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、変更になることがあります。確定した内容は、AO入試学生募集要項で必ず確認してください。

(注1) 面接は口頭試問を含みます。

(注2) 活動実績報告書の評価を含みます。

(注3) 模擬授業での評価を200点、プレゼンテーションの評価を400点とします。

(注4) プレゼンテーション資料作成を300点、グループディスカッションを400点とします。

特色加点制度について

「特色加点」とは、志願者の積極的なアピールと高校までの主体的な活動を喚起することを目的とした佐賀大学の新しい制度です。書類審査、小論文、プレゼンテーション資料作成、グループディスカッションなどの合計点（以下、「当初配点」という。）とは別に、志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点します。実績・活動の規模や志望分野との関係性、取り組み状況及び根拠資料の内容等を評価観点とします。志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。これまでに志願者が取り組んできた様々な実績や活動等が申請対象となります。

特色加点のイメージ

評価方法	当初配点	+ 特色加点申請書  最大100点まで加点
小論文	300	
プレゼンテーション資料作成	300	
グループディスカッション	400	
合計点	1000	

(これまでの実績や活動の例)

- 地域創生などに関わる主体的な活動
 - 課外活動（部活動や生徒会活動など）における実績や取り組み
 - 研究活動（高大連携活動〈SSH, SGH等を含む〉, 総合的学習等での活動実績）
 - 資格・検定試験など外部試験等の実績
 - 海外留学経験
 - その他主体的な活動
- など

申請方法については、AO入試学生募集要項で発表します。各種問い合わせはAO入試学生募集要項発表後に受け付けます。

VI 私費外国人留学生入試

本学では、私費外国人留学生のために特別の学力検査等を実施します。

1 出願資格

日本の国籍を有しない者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（平成27年6月又は平成27年11月実施のいずれか、医学部は平成27年11月実施のみ）を受験し、TOEFLを受験済みの者（経済学部を除きます。）で、次に掲げる入学資格を有する者

- (1) 日本国外において、学校教育による12年の課程を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者
- (2) 上記(1)に準ずる者で、文部科学大臣の指定する者

2 募集人員

各学部（教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部(医学科のみ)、理工学部、農学部）とも若干人

3 入学者選抜方法

- (1) 教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部

入学者の選抜は、次表のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績並びに本学が行う学力検査・面接等を総合的に判断し最終的な合格者を決定します。

- (2) 医学部

入学者の選抜は、次表のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績並びに本学が行う学力検査・面接を総合的に判断し最終的な合格者を決定します。

※学力検査の教科・科目名等

数 学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B（注）

理 科 物基・物、化基・化

外国語 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ

（注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

事 項	教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部	
			芸術表現コース	地域デザインコース					
日本留学試験	利用する回の指定	6月、11月のいずれか		6月、11月のいずれか		6月、11月のいずれか	11月	6月、11月のいずれか	6月、11月のいずれか
	出題言語の指定	日本語		日本語		日本語	日本語	日本語又は英語	日本語
	文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
	日 本 語	○	○	○		○	○	○	○
	理 科	○		○		○	○	○	○
	数学(コース1)	△	△	△		○	○		○
	数学(コース2)	△	△	△		○		○	○
	総 合 科 目	○		○		○		○	
	理科の選択科目	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2科目選択		○		「物理」, 「化学」, 「生物」から2科目選択		「物理」, 「化学」, 「生物」から2科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から2科目選択
	TOEFL	○		○		○		○	○
学力検査等	面接、日本語(作文)		面接、 実技検査	面接、 日本語(作文)	面接、 日本語	面接、 学力検査	面接	面接	
特記事項、備考	面接を通じて、教育学部の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。		鉛筆による デッサン (実技道具は 大学で準備 します。)		日本語は、読解、作文及びリスニングとします。	面接を通じて、志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて、志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて、志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	

(注1) ○印は、必ず受験しておくことを示します。
(注2) △印は、数学のコース1又はコース2から1つを受験しておくことを示します。
(注3) 各学部第1志望のみ。

日本留学試験、TOEFL、学力検査等の配点等

事 項	教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部	
			芸術表現コース	地域デザインコース					
日本留学試験	文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
	日 本 語	450	450	450		225	450	450	450
	理 科	200		200		100	200	200	200
	数 学	200	200	200		100	200	200	200
	総 合 科 目	200		200		100		200	
TOEFL	300		300		300		300	300	
面 接	400	400	500	400	合、否	60	A、B、C	850	
日 本 語	500	500	500		400		400		
学 力 検 査	240		240		240		240		
実 技 検 査	400		400		400		400		
総 合 評 価 等	2050		2050		合、否	合、否	良、可、不可	合、否	

4 出願期間

教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 医学部, 理工学部, 農学部	平成28年1月21日(木)～平成28年1月28日(木)
---	-----------------------------

5 入試期日

教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 理工学部, 農学部	平成28年3月1日(火)
医学部	平成28年2月25日(木)～平成28年2月26日(金)

6 合格者発表日

教育学部, 芸術地域デザイン学部, 経済学部, 医学部, 理工学部, 農学部	平成28年3月6日(日)
---	--------------

VII 事前相談を要するみなさんへ

本学において、受験上及び修学上の配慮を必要とされる志願者（障がい等を有するなど）は、出願にあたって、次により相談してください。

1 相談の時期

推薦入試志願者（経済学部・医学部・理工学部・農学部）	平成27年10月2日(金)まで
帰国子女特別入試志願者	
社会人特別入試志願者	
佐賀県推薦入学特別入試志願者	
AO入試志願者	平成27年11月13日(金)まで
推薦入試志願者（教育学部・芸術地域デザイン学部）	
私費外国人留学生入試志願者	平成27年12月4日(金)まで
一般入試志願者	平成28年1月15日(金)まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障がい等を有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

2 相談の方法

電話、郵便等にて、下記まで連絡ください。詳細については、その際に説明いたします。

相談及び連絡先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課 TEL 0952-28-8178

VIII 平成29年度以降の入学者選抜方法等の変更について〔予告〕

佐賀大学では、平成29年度以降の入学者選抜より、募集人員及び選抜方法等を以下のとおり変更します。

1 理工学部における推薦入試Ⅱの実施について

理工学部では、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科及び電気電子工学科に加えて、平成29年度入試から物理科学科においても、以下のとおり実施します。

学部・学科名		募集人員	大学入試センター試験の利用教科・科目名		高等学校で履修することが必要な教科・科目名	
			教科	科目名等	教科	科目名
理工学部	物理科学科	2人程度	国	国【必須】 世B、日B、地理B、 倫・政経 }から1	数	数学Ⅲ
			地歴・公民			
			数	数Ⅰ・数A【必須】 数Ⅱ・数B、簿・会、情から1	理	物理
			理			
			外	物【必須】 化、生、地学から1 英、独、仏、中、韓から1		

出願要件

- ・高等学校を平成29年3月卒業見込みの者及び平成28年3月に卒業した者
- ・学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者
- ・合格した場合は確実に入学できる者
- ・本学が指定する「高等学校で履修することが必要な教科・科目」を履修している者

2 理工学部機械システム工学科及び電気電子工学科における推薦入試Ⅱの出願要件の変更について

理工学部機械システム工学科及び電気電子工学科では、平成29年度入試から、以下のとおり「高等学校で履修することが必要な教科・科目」を追加します。

なお、大学入試センター試験の利用教科・科目等の変更点はありません。

【平成28年度】

【平成29年度】

学部・学科名		高等学校で履修することが必要な教科・科目名等		高等学校で履修することが必要な教科・科目名等	
		教科	科目名等	教科	科目名等
理工学部	機械システム工学科	数	数学Ⅲ	数	数学Ⅲ
	電気電子工学科				



IX 学生募集要項の公表・配布及び請求方法について

1 学生募集要項の公表時期

選 抜 種 別	公表・配布時期
推薦入試（経済学部・医学部・理工学部・農学部）	9月上旬
帰国子女特別入試※	
社会人特別入試	
佐賀県推薦入学特別入試	
AO入試	11月上旬
推薦入試（教育学部・芸術地域デザイン学部）	
推薦入試（教育学部佐賀県枠）	
私費外国人留学生入試	11月中旬
一般入試	

※帰国子女特別入試の募集要項については、本学ホームページからダウンロードできます。

2 学生募集要項の請求方法等

(1) インターネットによる請求

佐賀大学入試情報のページから請求が可能です。

<http://www.sao.saga-u.ac.jp>

資料請求の項目からテレメールの請求ページ、モバっちょの請求ページ等へ直接アクセスできます。

(2) 郵送による請求

本学あての封筒の表面に希望する学部・要項「〇〇学部」, 「平成〇〇年度〇〇要項請求」と朱書し、返信用封筒（角型2号封筒に郵送先を明記し350円分の切手を貼付したもの）を同封の上、下記のところへ請求してください。請求のあった要項と大学案内を送付します。

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

(3) 宅配便による配達を希望する請求（料金受取人払い）

- ① 「ファックス」により、請求する学生募集要項の種類、受取人の郵便番号、住所、氏名、電話番号等を様式1に記入し次へ申し込みください。請求のあった学生募集要項と大学案内を送付します。

申込書受付後の取消しはできませんので、注意してください。

(注意) ファックス送信が、確実にできたことを確認するために、申込者はファックス本体の送信結果のリスト等を必ず見てください。

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
Fax 0952-28-8944

- ② 配達は、申込者の住所によって異なりますが、申込書受付後、2～4日後となります。

(注意) ファックスの受付は、平日の9時～17時の間に行います。

- ③ 受取りの際は、中身を確認後、料金を宅配業者に直接支払ってください。

(4) 大学窓口での配布

平日の9時から17時まで、佐賀大学学務部入試課で配布します。

- (5) その他の請求方法等（推薦入試（教育学部佐賀県枠）、帰国子女特別入試、社会人特別入試の学生募集要項は業者には請求できません。）

〔方法1〕

1) 郵便局で請求する場合（10月より案内開始）

郵便局（普通局、特定局）に設置されている「国公立大学・短期大学及び通信教育課程、大学校募集要項（願書）請求申込書」（郵便局用願書請求カタログ）に必要事項を記入の上、送料と払込手数料を添えて、最寄りの郵便局の窓口で申し込みください。受付から1週間程度で送付されます。なお、請求申込書は高等学校で入手できる場合もあります。

2) テレメールで請求する場合

- ① 下記のいずれかの方法でアクセスしてください。

インターネットの場合 (パソコン・携帯電話・スマートフォン)	http://telemail.jp パソコン、携帯電話、 スマートフォンのURL(共通)	携帯電話でQRコードを読み取り、アクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。 
自動音声応答電話の場合	IP電話 050-8601-0101 ※IP電話への通話料金は、一般電話回線からは日本全国どこからでも3分毎に約12円です。	

② 希望する資料の資料請求番号（6桁）をプッシュまたは入力してください。

資 料 名	資料請求番号	送 料
大学案内	5 6 7 4 8 2	3 0 0 円
入学者選抜要項	5 8 7 4 8 2	2 1 5 円
入学者選抜要項・大学案内	5 6 7 4 5 2	3 5 0 円
一般入試学生募集要項	5 8 7 4 5 2	3 0 0 円（予定）
一般入試学生募集要項・大学案内	5 4 7 5 5 2	3 5 0 円（予定）
推薦入試学生募集要項(経済学部, 医学部, 理工学部, 農学部)	5 9 7 3 5 2	3 5 0 円（予定）
推薦入試学生募集要項(教育学部, 芸術地域デザイン学部)	5 9 7 3 6 2	3 0 0 円（予定）
佐賀県推薦入学特別入試学生募集要項	5 8 7 4 9 2	2 1 5 円（予定）
A O 入試学生募集要項	5 4 7 5 6 2	3 0 0 円（予定）
私費外国人留学生入試学生募集要項	5 8 7 4 7 2	2 1 5 円（予定）

③ あとはガイダンスに従って登録してください。

※ 1), 2) の請求方法についてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター
TEL 050-8601-0102（9：30～18：00）

〔方法2〕

インターネットで請求する場合

パソコン・携帯電話からのアドレス <http://manabi.benesse.ne.jp/> に申し込みください。

※請求方法についてのお問い合わせ先

進研アド・物流センター
TEL 0740-36-1025（月～金 9：00～17：00）

〔方法3〕

大学情報センター「モバっちょ」で請求する場合

① 下記のいずれかの方法でアクセスしてください。

携帯電話の場合	資料請求料金を携帯電話の通話料金と一緒に支払ってください。 (郵便局等に払い込みに行く必要がありません。)	携帯電話QRコードを読み取り、アクセスしてください。	
	※携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況によりご利用できない場合があります。		
パソコンの場合	http://djcm-b.jp/saga-u/ (クレジットカード決済のみとなりますが、携帯電話の場合と同じ料金で請求できます。)		

② 資料の種類と送料について

資 料 名	送料（手数料込）
大学案内	250円
一般入試学生募集要項	250円
一般入試学生募集要項・大学案内	300円

③ 請求方法についてのお問い合わせ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター
TEL 050-3540-5005（平日 10:00~18:00）

- (6) 佐賀県推薦入学特別入試の学生募集要項は、佐賀県健康福祉本部医務課地域医療体制整備室においても配布します。

※お問い合わせ先

〒840-8570 佐賀市城内1-1-59
佐賀県健康福祉本部医務課地域医療体制整備室
TEL 0952-25-7033
<http://www.pref.saga.lg.jp/>

送信先 佐賀市本庄町1番地
 佐賀大学学務部入試課 御中
 Fax 0952-28-8944

佐賀大学「学生募集要項」申込書 (ファックス)

下記の要項を請求します。料金は受取りの際に支払います。

請求する要項 (○で囲む)	1. 一般入試 (11月中旬発表) 2. 推薦 (経済学部・医学部・理工学部・農学部) (9月上旬発表) 3. 社会人 (9月上旬発表) 4. 佐賀県推薦入学 (9月上旬発表) 5. A O (11月上旬発表) 6. 推薦 (教育学部・芸術地域デザイン学部) (11月上旬発表) 7. 推薦 (教育学部佐賀県枠) (11月上旬発表) 8. 私費外国人留学生 (11月上旬発表)	
出願予定学部	<input type="checkbox"/> 教育学部 <input type="checkbox"/> 芸術地域デザイン学部 <input type="checkbox"/> 経済学部 <input type="checkbox"/> 医学部 <input type="checkbox"/> 理工学部 <input type="checkbox"/> 農学部 (□欄に✓を記入してください。)	
部数	部	
配達先	電話番号	市外局番 () -
	住所	〒
	氏名	
配達時間の指定の有無 ※希望する時間帯に ○印を付してください。	有	{ 午前 12時 14時 16時 18時 20時 } { 中 14時 16時 18時 20時 21時 }
	無	

(注) FAX の送信は、学生募集要項発表後をお願いします。

本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用ください。



携帯用 URL:<http://daigakujc.jp/saga-u/>